

2022 年度 山梨学院大学 卒業生調査報告

学習・教育開発センター

文責：潘秋静・倉澤一孝

1. 調査目的

山梨学院大学は、本学の教育活動等について検証・評価し、今後の教育や学生支援活動の充実を図るために IR 調査を実施している。

本調査では、過去 5 年間に本学を卒業した学生を対象に、本学の教育、学生支援、学修成果、また、卒業後のキャリアについて、卒業生を対象に調査を実施した。この調査は、卒業生の現状を把握するとともに、本学の教育活動の有用性について卒業生から評価を求めることによって、エビデンスに基づき今後の施策を検討することを目的として実施した。

2. 調査期間

2022 年 8 月 4 日（木）～2022 年 8 月 18 日（木）

3. 調査方法

アンケートに回答を依頼するはがきを卒業生に郵送し、Web アンケートシステム「Microsoft forms」を利用して回答を収集した。

4. 調査対象

- ✓ 調査対象：就職キャリアセンターの卒業生連絡リストに登録されている 3672 名
- ✓ 有効回収率：3.5%（回答：128 名）

5. 調査項目

第 1 部 回答者情報

第 2 部 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果

第 3 部 卒業後の就職・仕事状況から見た本学の教育効果

第 4 部 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度

6. 調査結果の要約

<第1部 回答者情報>

- 本学の卒業生リストに登録されている3672名に回答を依頼し、128名(3.4%)から回答があった。
- 回答のあった卒業生の卒業年度は、「2021年3月卒」(25%)が最も多く、次いで「2021年3月卒」(22%)、「2020年3月卒」(21%)、「2018年3月卒」(18%)、「2019年3月卒」(12%)の順である。
- 回答のあった卒業生の出身学部は、「法学部」52%が最も多く、次いで「経営学部」23%、「スポーツ学部」16%、「健康栄養学部」9%の順である。
- 現在の住所を尋ねたところ、「山梨県」(36.7%)が最も多く、次いで「東京都」(11.7%)、「長野県」(11.7%)、「神奈川県」(7.0%)、「埼玉県」(6.3%)、「静岡県」(5.5%)の順である。

<第2部 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果>

- 本学を選んだ理由の上位3位は以下の通りとなった。

本学を選んだ理由	回答数	順位
5. 学びたい学部・学科がある	62	第1位
10. 自宅から通学できる	38	第2位
11. 推薦入学制度があった	29	第3位

- 大学時代に卒業生が取り組んだ活動を、「4. 熱心」の割合でランク付けすると、トップ3位は以下の通りとなった。

大学で熱心に取り組んだこと	割合	順位
a. 大卒の学歴を得るための必要な単位を取ること	46.1%	第1位
g. 課外活動(部活、サークル、ボランティア)	43.8%	第2位
h. アルバイト	39.1%	第3位

- 一方、同じ質問で、大学時代に体験しなかったと回答した割合が多かった項目は以下の通りである。

大学で体験しなかったこと	割合	順位
k. 大学院への進学準備・勉強	83.6%	第1位
e. 留学や異文化交流	56.3%	第2位
j. インターンシップ	43.8%	第3位

本学は社会で活躍できる国際人材を育成することを目指しており、この観点から見ると、より多くの学生に対して留学や異文化交流、インターンシップの機会を提供する必要があると考えられる。

- 山梨学院大学で身につけたコンピテンスとして、卒業生に最も認識された上位3項目と下位3項目は以下の通りとなった。(最大値4点、最小値1点)

上位		M 値	下位		M 値
1	自分とは異なる考えを理解し、受容する力	3.23	1	外国語の能力	1.77
2	コミュニケーション能力	3.19	2	広い国際視野	2.20
3	倫理観・責任意識	3.14	3	コンピューターを扱う知識・技術	2.53

本学の教育を通して、社会人としての基礎的能力・資質を身につけたと卒業生が評価する一方、国際人材として必要とされるコンピテンス、および、コンピューターを扱う知識・技術の育成が弱い傾向があると推察される。

- 本学の教育・キャンパスライフ全般に関して、「満足している」(37.0%)「ある程度満足している」(56.3%)と回答した卒業生を合わせると、96.3%の卒業生が本学の教育・キャンパスライフに肯定的な評価をしていることがわかった。自由記述では、就職活動支援、学生相談、学生支援、少人数教育、質の高い教職員といった理由が挙げられている。

<第3部 卒業後の就職・仕事状況から見た本学の教育効果>

- 主な勤務先の業種は、「公務」(28.1%)、「情報通信業」(10.9%)、「医療・福祉」(10.9%)、(9.4%)、「金融・保険業」(7.0%)、「建設業」(4.7%)、教育・学習支援業(4.7%)である。
- 回答のあった卒業生は、「事務従事者」(23.4%)、「販売従事者」(17.2%)、「公務員(市役者職員・警察等)」(8.6%)、「その他」(7.8%)、「情報処理・通信技術者」(7.0%)といった職種に従事している。
- 現在働いている勤務先が何社目であるか尋ねたところ、「学部卒業後、転職なし、1社目」(73.4%)が最も多く、次いで、転職ある場合には、「2社目」(17.2%)、「4社目」(1.6%)の順である。最初に就いた仕事から転職または退職した理由は、「新たなステップアップを図るため」(29.4%)、「その他」(23.5%)、「職場の人間関係」(17.6%)、「能力不足」(11.8%)が上位になっている。

- 現在の仕事で役に立っている学習経験を「4. かなり役に立っている」の割合でランク付けすると、上位5位は以下の通りである。

現在の仕事に有用となる学修経験	割合	順位
j. 課外活動（部活・サークル・ボランティア）	28.9%	第1位
l. 友達や人的ネットワークの作成	26.6%	第2位
k. アルバイト	25.8%	第3位
d. 専門科目	21.9%	第4位
i. 資格取得・検定試験勉強	18.0%	第5位

- 留意点：正課の学修経験、および、それを通じて身に付けたコンピテンスは、卒業後の仕事で役に立っていると卒業生に認識されると同時に、課外活動、人的ネットワーク、資格も卒業後の仕事に有用であると卒業生が考えていることがわかった。正課の活動と正課外の活動を両立させる仕組みを作ることは、本学の教育改善と質的転換を図る上で重要であると考えられる。

- 卒業生が考える、企業が採用で重視するコンピテンスを「4. かなり重視する」の割合でランク付けすると、上位5位は以下の通りとなった。

卒業生が考える、企業が採用で重視する能力	割合	順位	企業の回答の順位
i. コミュニケーション能力	62.5%	第1位	第1位：76.2%
t. 人柄・倫理観・責任意識	59.4%	第2位	第2位：66.8%
r. 行動力	54.7%	第3位	第5位：50.0%
k. 困難や失敗を乗り越えるチャレンジ精神	52.3%	第4位	第4位：54.3%
q. ストレス解消力（環境適応力）	45.3%	第5位	第6位：40.6%

- 他方、「1. まったく重視しなかった」の割合でコンピテンスをランク付けすると、上位5位は以下の通りとなった。

企業にまったく重視されなかった能力	割合	順位	企業の回答の順位
f. 海外留学経験	75.8%	第1位	第1位：52.7%
m. 外国語の能力	46.9%	第2位	第2位：44.5%
c. 推薦や紹介を受けること	42.2%	第3位	第6位：20.7%
b. 大学の評判・知名度	37.5%	第4位	第4位：31.3%
q. 学部の種類	34.4%	第4位	第3位：39.1%

- 留意点：国際化の進展に従い、今後の社会で国際的人材として活躍するために、海外留学経験、国際的視野、外国語力といった能力が不可欠だと一般的には考えられてい

る。しかし、今回の卒業生調査の結果を見ると、今年度の企業調査と同様に、回答のあった卒業生はこれらの能力を重視していない傾向が見られる。ただし、回答した卒業生の数や勤務先で担当する職種が限定されるため、本調査の結果が本学の人材育成や教育改善にどの程度参考になるかについては慎重に検討すべきであり、さらなる調査が必要だと考えられる。

- 卒業後の仕事に対する満足度に関して、「とても満足している」「ある程度満足している」と回答した割合を合算すると、82.8%の卒業生は現在の仕事に満足していることが分かった。また、仕事以外の生活の満足度に関して、「とても満足している」「ある程度満足している」と回答した割合を合算すると、85.9%の卒業生は、現在の生活に満足していることが分かった。本学の卒業生の多くは、仕事と生活のいずれに対しても満足度が高いようである。

<第4部 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度>

- 大学（本学）教育の有用性
本学での学習経験や獲得したコンピテンスについて、「a. 人格の発達」「b. 長期的なキャリアを展望すること」「c. 専門分野に応じる仕事を見つけること」「d. 満足のいく仕事を見つけること」に役に立っているのかという観点から、本学の教育の有用性について尋ねたところ、「とても役に立っている」の割合と「やや役に立っている」の割合を合算すると、約7~8割の学生が本学の教育を肯定的評価している。特に、人格の発達の上で役に立っていると肯定的に回答している学生は84.4%いる。
- 本学への投資価値
 - 18歳の時点に戻り、再度高校卒業後の進路選択ができると仮定した場合、「四年制大学に行く」（95.3%）と考える卒業生の割合が最も多く、「専門学校に行く」（3.1%）、「短期大学に行く」（0.8%）、「進学しない」（0.8%）の順となった。
 - さらに、「四年制大学に行く」と回答した卒業生に、再度18歳時点に戻ることができると仮定したら、同じ大学を選択するか尋ねたところ、「やや可能性が高い」（47.7%）と回答する卒業生が最も多く、次いで「あまり可能性がない」26.6%、「とても可能性が高い」16.4%、「まったく可能性がない」（9.4%）の順となった。「とても可能性が高い」「やや可能性が高い」を合わせると、本学を再び選択すると回答した卒業生は6割を超える。
 - 他方、同じ専門分野を再度選択するか尋ねたところ、「とても可能性が高い」（40.6%）と回答した割合が最も多く、次いで「やや可能性が高い」（30.5%）となった。両者を合わ

せた割合は71.1%となり、10人のうち7人の卒業生は自分の専門選択に後悔がなく、本学が取り組んでいる専門教育に肯定的な評価をしていることがわかった。

- 本学への愛着度

本学への進学を他の人に推薦するか尋ねたところ、「やや推薦します」(50.3%)と回答した割合が最も多く、次いで「推薦します」(27.3%)となった。両者を合わせた割合は71.1%となり、10人のうち7人の卒業生は母校に愛着度を持ち、他人に自分の母校への進学を推薦する可能性があるかと推測される。

7. 調査結果

調査結果を7ページから30ページに記載したので、参照されたい。

8. 集計結果

集計データを31ページから45ページに記載したので、参照されたい。

7. 調査結果

調査結果

第I部分 回答者情報

1. 卒業年度

卒業年度について尋ねたところ、「2021年3月卒」25%が最も多く、次いで「2021年3月卒」22%、「2020年3月卒」21%、「2018年3月卒」18%、「2019年3月卒」(12%)の順である。

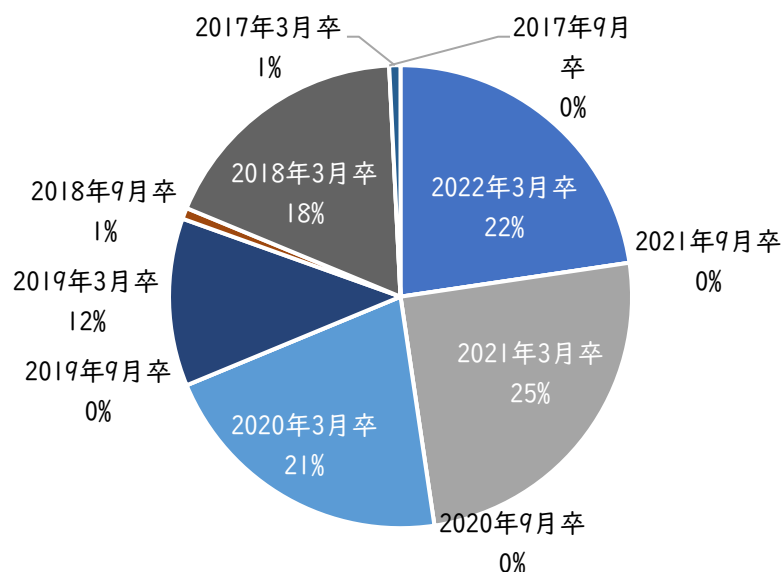


図 1-1 回答者の卒業年度

2. 卒業学部・学科

学部について尋ねたところ、「法学部」52%が最も多く、次いで「経営学部」23%、「スポーツ学部」16%、「健康栄養学部」9%の順である。

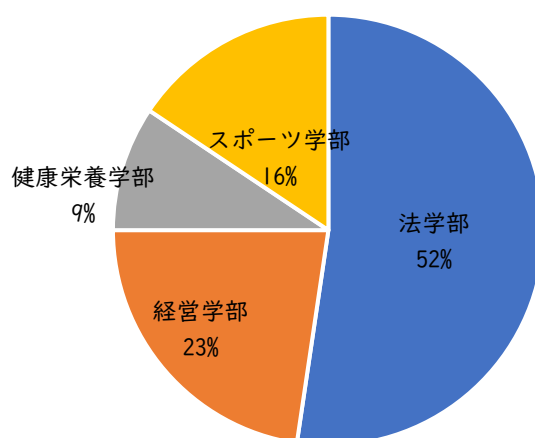


図 1-2 卒業した学部

3. 現在の居住地

現在の住所について尋ねたところ、「山梨県」36.7%が最も多く、次いで「東京都」11.7%、「長野県」11.7%、「神奈川県」7.0%、「埼玉県」6.3%、「静岡県」5.5%の順である。

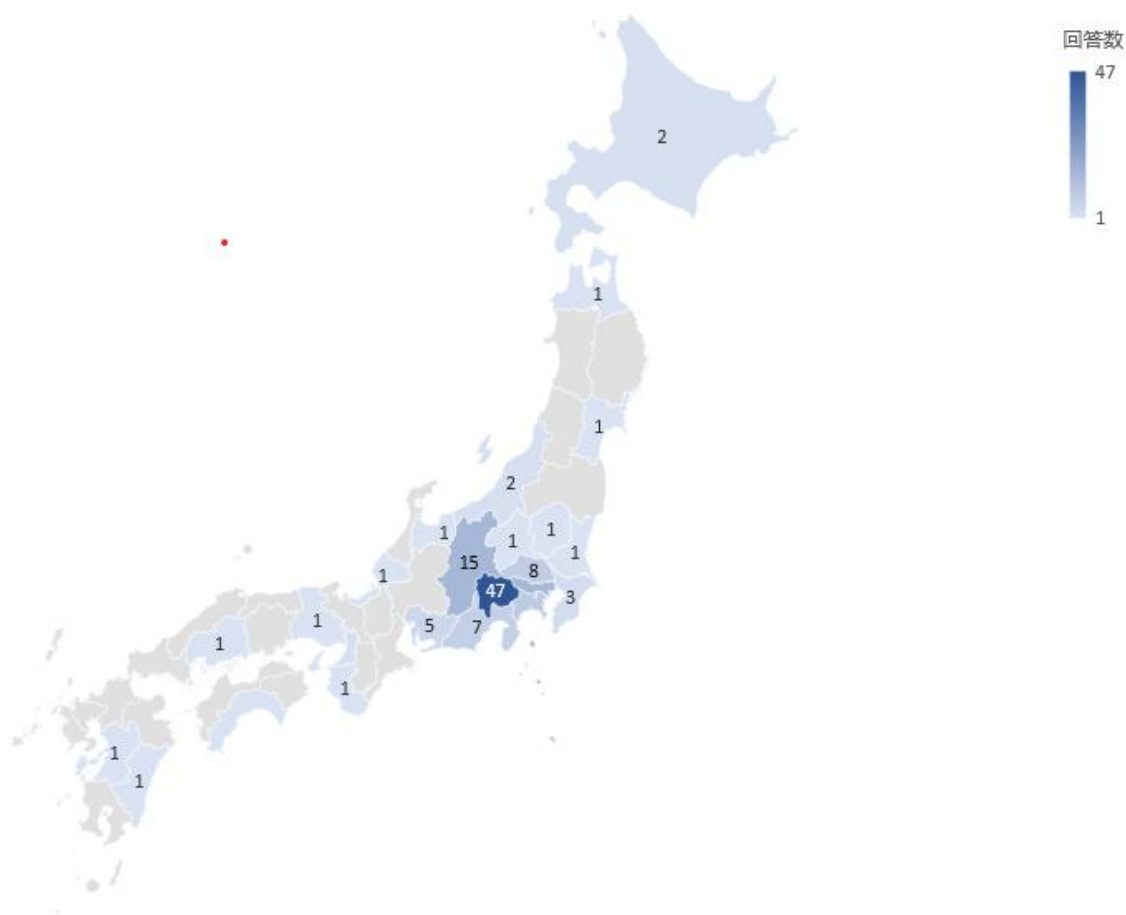


図 3-1 地図から見る卒業生の分布

第2部分 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果

1. 進学理由（複数回答）

Q. 本学を選んだ理由を教えてください。当てはまる理由を選択してください。

(1) 全体

全体の選択から見ると、本学を選んだ理由のうち、トップ5位はそれぞれが、

- 5. 学びたい学部・学科がある →教育特徴
- 10. 自宅から通学できる→現地への人材育成機能
- 11. 推薦入学制度があった→柔軟性のある入試制度
- 2. キャンパスの立地がよい→地理的優勢
- 7. 親や知人に勧められた→社会評価

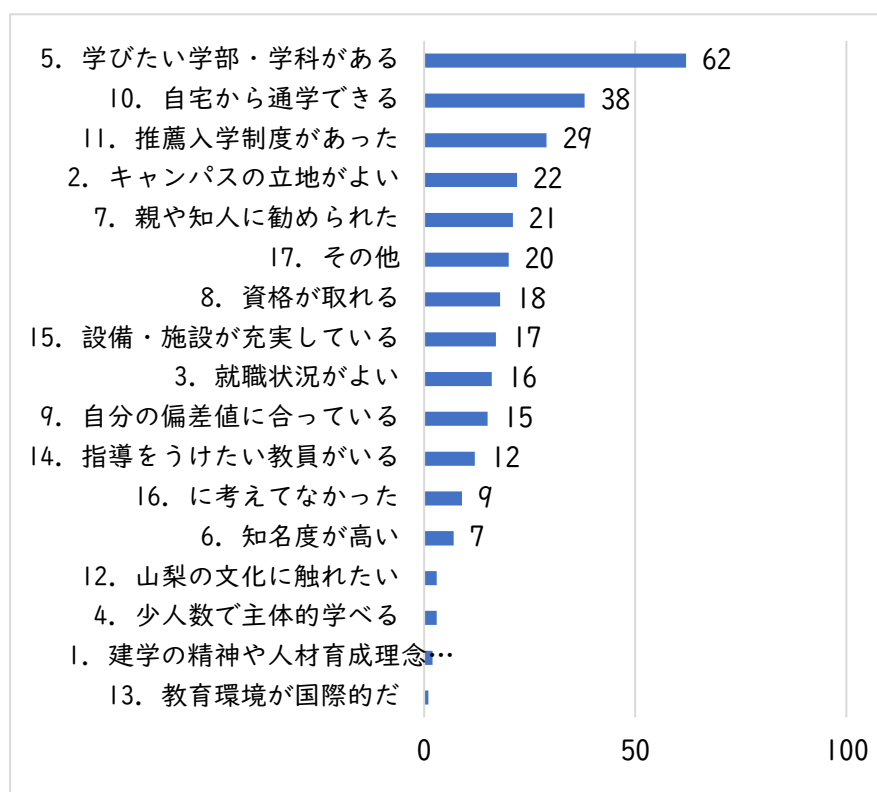


図 2-2-1 卒業生から見た本学を選んだ理由

※進学理由を「17. その他」が記入された中身は以下の通りである。

回答	「その他」の本学を進学した理由
1	水泳部で活動したかったため
2	公務員講座があったから
3	スポーツ推薦

4	私大にいくなら県内といわれた
5	駅伝を走るため
6	スポーツ推薦をいただいたから
7	山梨学院のバスケ部に入部したかったから
8	陸上競技部に入るため
9	一人暮らしがしたかった
10	第一志望の大学が不合格だったから
11	当時スポーツ科一期生の募集であった為と憧れた先輩が在学していた為
12	一部リーグで野球がしたかったから
13	地元、滑り止めだった
14	自立したかったので、故郷から離れた場所にあったから
15	部活動
16	部活動に専念するため（女子テニス部に所属）
17	部活をやるのに適した環境であったから
18	併願校だったため
19	附属高校からだと入りやすいため
20	公務員になりたい

(2) 学科ごと見る「本学を選んだ理由」

卒業生の「本学を選んだ理由」について、全体のトップ3位と学科別のトップ3位を比較してみると、法学部を除く場合には、共通点が多くある一方、残り3学部の各学科特有の理由も見られる（学部間で共通する理由は青でマーク、学科特有の理由は赤、黄、オレンジ色、緑でマークした）。

法学部			経営学部			健康栄養学部			スポーツ学部		
	進学理由	回答数		進学理由	回答数		進学理由	回答数		進学理由	回答数
1	10. 自宅から通学できる	20	1	1. 建学精神や人材育成理念に惹かれた	9	1	9. 自分の偏差値に合っている	14	1	5. 学びたい学部・学科がある	12
2	11. 推薦入学制度があった	20	2	9. 自分の偏差値に合っている	8	2	4. 少人数で主体的学べる	12	2	14. 指導をうけたい教員がいる	8
3	5. 学びたい学部・学科がある	17	3	8. 資格が取れる	7	3	7. 親や知人に勧められた	8	3	8. 資格が取れる	6
4	2. キャンパスの立地がよい	12	4	3. 就職状況がよい	6	4	1. 建学の精神や人材	4	4	15. 設備・施設	5

5	3. 就職状況がよい	11	5	4. 少人数で主体的学べる	6	5	14. 指導をうけたい教員がいる	3	5	17. その他	5
6	7. 親や知人に勧められた	11	6	6. 知名度が高い	6	6	2. キャンパスの立地がよい	1	6	7. 親や知人に勧められた	4
7	15. 設備・施設が充実している	11	7	10. 自宅から通学できる	6	7	3. 就職状況がよい	1	7	10. 自宅から通学できる	4
8	4. 少人数で主体的学べる	9	8	16. に考えてなかった	6	8	6. 知名度が高い	1	8	11. 推薦入学制度があった	4
9	9. 自分の偏差値に合っている	8	9	15. 設備・施設が充実している	5	9	8. 資格が取れる	1	9	4. 少人数で主体的学べる	2
10	17. その他	8	10	2. キャンパスの立地がよい	4	10	10. 自宅から通学できる	1	10	6. 知名度が高い	2
11	12. 山梨の文化に触れたい	7	11	5. 学びたい学部・学科がある	3	11	13. 教育環境が国際的だ	1	11	3. 就職状況がよい	1
12	6. 知名度が高い	4	12	7. 親や知人に勧められた	3	12	15. 施設が充実している	1	12	9. 偏差値に合っている	1
13	8. 資格が取れる	4	13	13. 教育環境が国際的だ	1	13	16. 特に考えてなかった	1	13	1. 建学精神や人材育成理念に惹かれた	0
14	14. 指導をうけたい教員がいる	4	14	14. 指導をうけたい教員がいる	1	14	5. 学びたい学部・学科がある	0	14	2. キャンパスの立地がよい	0
15	16. に考えてなかった	4	15	11. 推薦入学制度があった	0	15	11. 推薦入学制度があった	0	15	12. 山梨の文化に触れたい	0
16	1. 建学の精神や人材育成理念に惹かれた	2	16	12. 山梨の文化に触れたい	0	16	12. 山梨の文化に触れたい	0	16	13. 教育環境が国際的だ	0
17	13. 教育環境が国際的だ	2	17	17. その他	0	17	17. その他	0	17	16. に考えてなかった	0

2. 大学で熱心に取り組んだこと

大学時代に、卒業生が最も熱心に取り組んだ活動を尋ねたところ、「4.熱心」の割合から見ると、のトップ3位となるのは、「a.大卒の学歴を得るための必要な単位を取ること」(46.1%)、「g.課外活動(部活、サークル、ボランティア)」(43.8%)、「h.アルバイト」(39.1%)となっている。課外活動が大学生活の重要な一部となったことが分かった。

他方、体験しなかったことの前3位は、「k.大学院への進学準備・勉強」(83.6%)、「e.留学や異文化交流」(56.3%)、「インターンシップ」(43.8%)であった。本学は社会で活躍できる国際人材を育成することを目指しており、この観点から見ると、より多くの学生が留学や異文化交流、インターンシップを経験するための取り組みが必要であると考えられる。

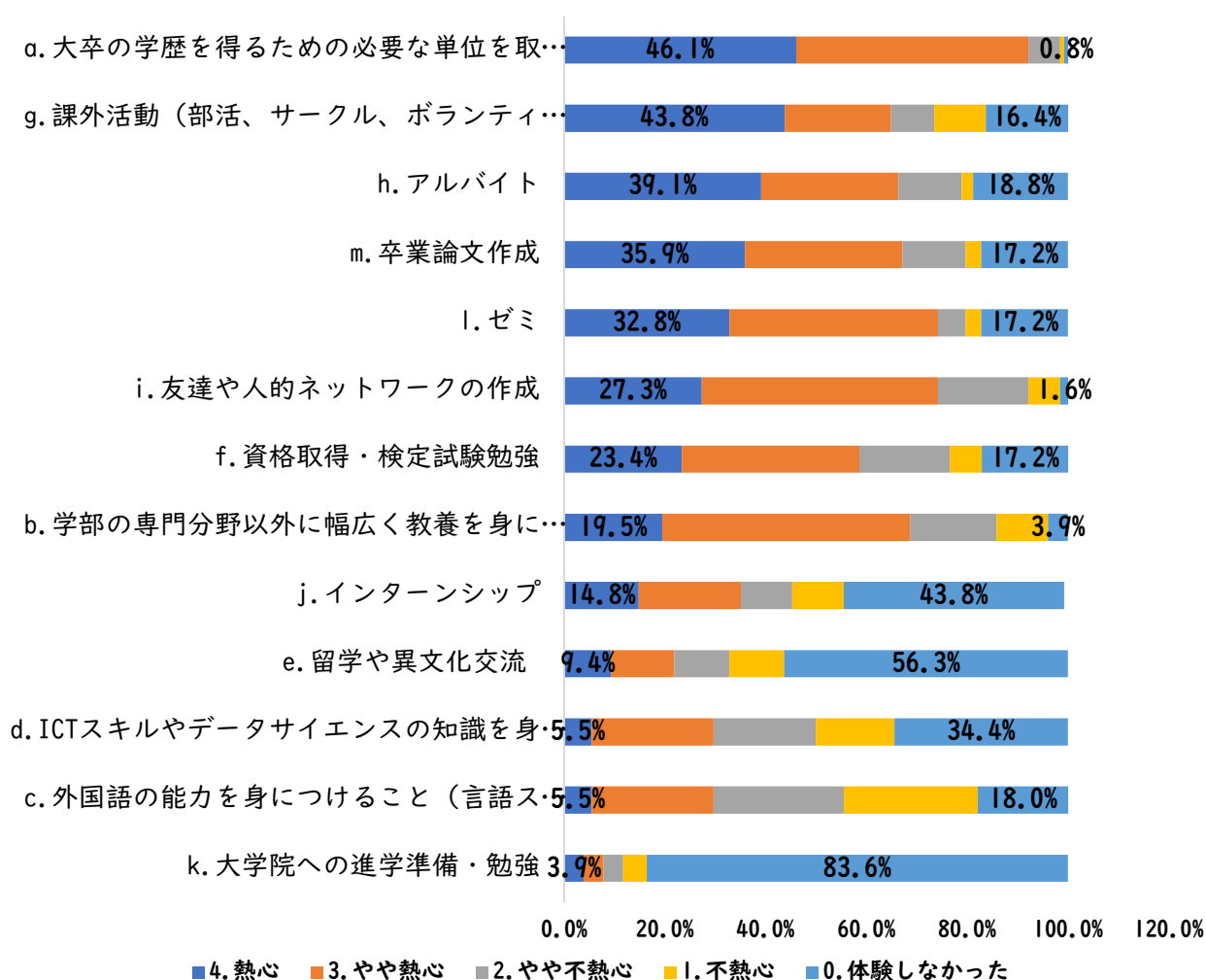


図2-2-1 大学時代に取り組んだこと

3. 山梨学院大学で身につけたコンピテンス（知識・スキル・資質）

山梨学院大学で身につけたコンピテンスとして、最も卒業生に強く認識されたコンピテンスの上位3項目がそれぞれ

第一位「n.自分とは異なる考えを理解し、受容する力」(M=3.23)

第二位「l.コミュニケーション能力」(M=3.19)

第三位「v.倫理観・責任意識」(M)=3.14

他方、それに対して、下位3項目は、

下位の1位は「m.外国語の能力(M=1.77)」

下位の2位は「o.広い国際視野(M=2.2)」

下位の3位は「e.コンピューターを扱う知識・技術」(M=2.53)となったことだ。

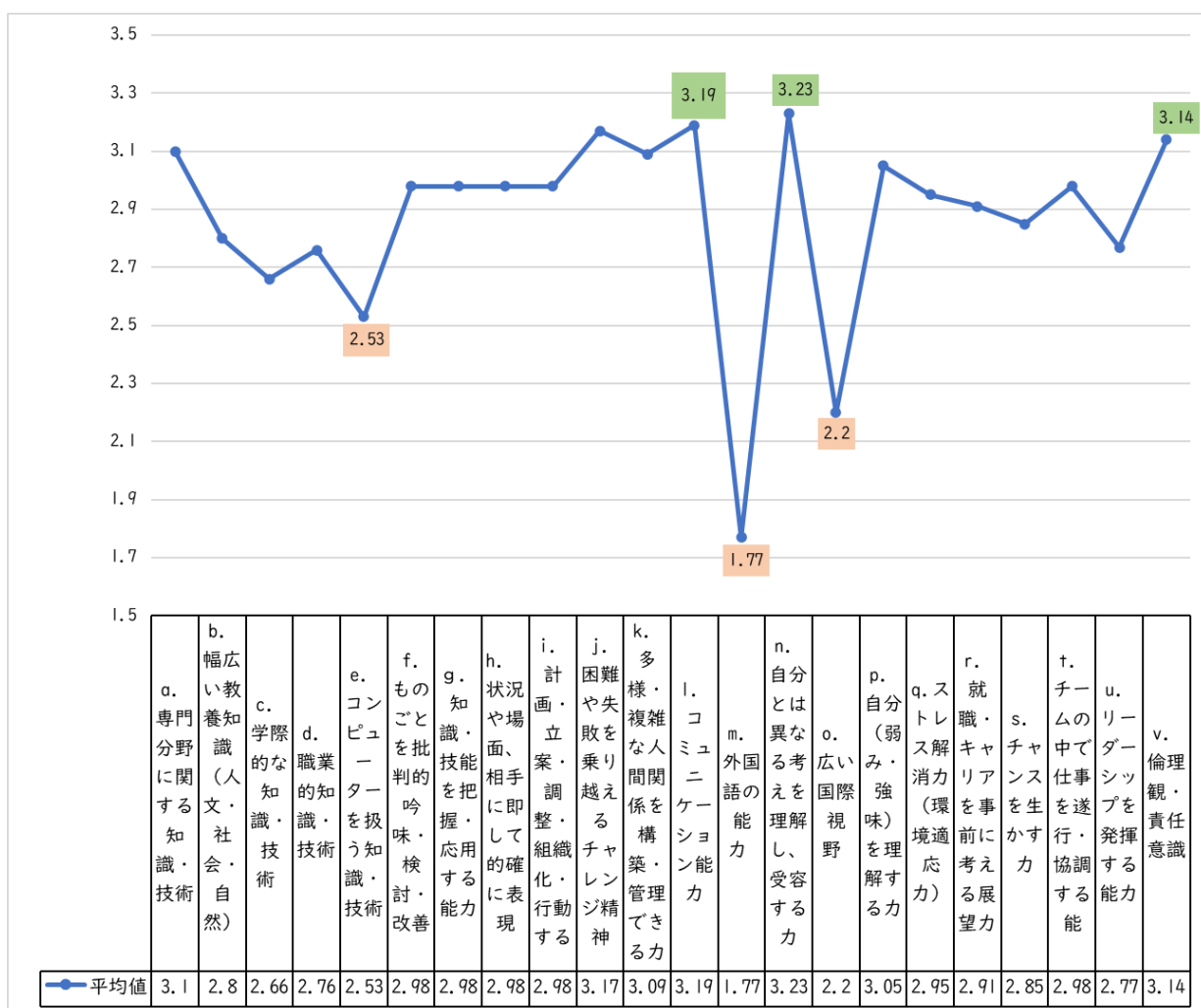


図 2-3-1 卒業時点身につけたコンピテンス

4. 大学教育・キャンパスライフへの総合評価

母校の教育・キャンパスライフの全般に対する総合評価に関して、「ある程度満足している」56.3%が最も多く、次いで「とても満足している」40%である。さらに、「ある程度満足している(56.3%)」と回答した卒業生を加えると、96.3%の卒業生が母校に肯定的な評価をしていることがわかった。

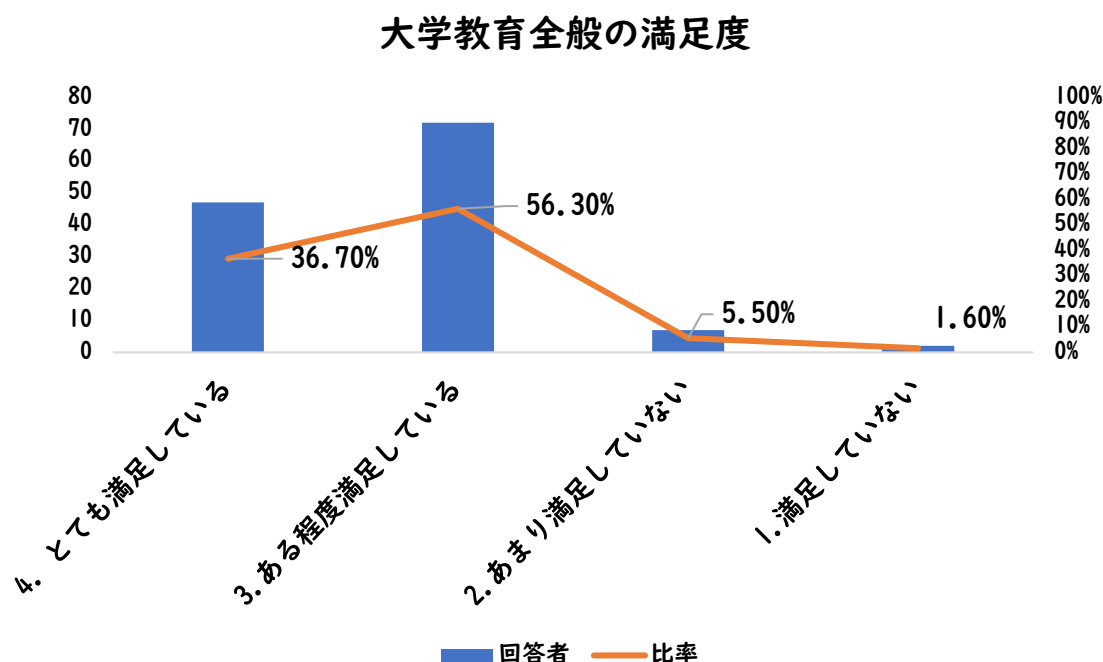


図 2-4 母校の教育・キャンパスライフの満足度

1. 4.1 大学生生活に満足と評価した理由は以下の通りである。(赤字は不満な意見を指す)

回答者	上記「問題 12」にて選択した満足度に対して、よろしければ、その理由を教えてください。
1	水泳部での活動が思い出にも今後の社会人生活にも活かしています。
2	大学の設備がよく、いい友人や教授に巡り会えたからです。
3	東京都に大学を作ったらもっと人が集まると思います。
4	通っていた学部での学びや環境、教授、就職活動への取り組みについてはとても満足しており、4年間通って良かったと思っています。 しかしキャンパス全体で考えると、当時喫煙所が外に多数あり、いつ通っても喫煙している学生がいました。タバコが苦手な自分にとっては喫煙所を隔離して欲しいと思っていたので、この回答にしました。
5	就職の支援が充実していたためです。

6	<p>最後は、オンラインやコロナ感染拡大で大満足な学生生活ではなかったが、あまり友達とうまくいかなかった経験もなく、勉強に対しても真摯に教えて頂いた経験もあるので、ある程度満足しています。</p>
7	<p>学生数が少ないからこそ、一人一人の学生に対する支援が非常に手厚く、大変有意義な4年間を過ごさせて頂きました。ただ授業中に喋っている生徒が居た為、少し気になりました。</p> <p>4年間、大変お世話になりました。</p>
8	<p>3、4年はほぼオンラインだったためです。</p>
9	<p>親身になってくれる部活動の指導者に4年間救われました。</p>
10	<p>充実した就活のサポートがあったから。また、感染症が流行ったことでゼミでの活動が少なくなってしまったから。</p>
11	<p>大学に入学してからもコロナ禍になってからも大学の先生や就職キャリアセンターのスタッフさんの手厚いサポートでキャンパスライフを充実することが出来たので、とても満足しています。</p>
12	<p>全体的に満足しています。</p> <p>様々な環境も良かったので人間関係も継続しております。</p>
13	<p>大学生活では、自分の時間を友好的に活用することができたし、自分の好きなことや学びたいことにリソースを注ぐことができたからです。</p>
14	<p>全体的に見て楽しかったからです。</p>
15	<p>その後安定して仕事をする事ができることに繋がりました。</p>
16	<p>スポーツ推薦で入学しましたが、大学の充実した制度を利用できなかったし、留学できなかったです。</p>
17	<p>今の自分の人生においてかなり重要な経験ができた4年間だったからです。</p>
18	<p>海外研修に2週間行けたことが社会人になって出来ることではないので、視野を広げる良い機会になりました。</p> <p>大学は、住み慣れた場所で自宅から通いながら無理なく資格取得を目指す事が出来たので、管理栄養学科という忙しい学部でも、バイトを続けながら勉強と両立することができました。</p> <p>建物がわりと新しく、清潔感があり、勉強しやすい環境でありました。</p> <p>専門の学部は、学費が高いという部分が難点なところである。</p>
19	<p>大学でしか経験できないことや出会いがあったからです。</p>
20	<p>スポーツ科学部の教授達が熱心に教えてくれて施設も綺麗で部活動にも全力で励める環境下だったからです。</p>
21	<p>第一志望でもない大学だったので期待はしていなかったが、教授や職員のレベルが高く、学ぶ機会是有名私立大学と同等に与えられていたように感じました。</p> <p>危機管理の講義で「どの川で泳ぐかではなく、どのように泳いだかが大事だ」と講師の方から言われ大変印象に残っています。</p> <p>自分は与えられた学ぶ機会を十分に使い切れていなかったと思うので、もし大学時代に戻れるならばもっと真剣に学びたいです。</p>

22	<p>生きる上での道標となる本に出会うことができました。</p> <p>大学に通い、積極的に動いたからこそ出会えた本だと思います。</p>
23	自身のスキルアップができる環境がとても良かった
24	自分の時間が多くあり様々なことについて自分の中で整理することができました。
25	教授方がとても熱心だったです。
26	実習や先生方のサポートが充実していたためです。
27	なんとなく。
28	学びたい分野について学ぶことができた。また、大学が主催するインターンシップに参加し貴重な体験ができたためです。
29	教員が熱心に指導してくれ、その指導があったからこそ、国家試験に合格できたから。また、施設も綺麗で印刷物など無償提供してくれたため、学びをサポートしてもらったキャンパスライフであったからです。
30	外国に行くという良い経験ができました。
31	充実していたが3年途中時からでありそれまでは学校や先生との関わりもあまりなく活用できなかったとかんじています。
32	それなりの大学生活を送れたからです。
33	授業やゼミに関しては、自分の興味ある分野を深掘りする事ができました。部活動では他の大学と話をする事ができました。常に新しいことに挑戦する事ができたので満足でした。
34	部活動ではかなり満足しています。積極的に行動しなかったため、あまり大学生活を楽しめてなかったなと感じました。
35	大学でしか学べないことを学べることができたからです。
36	コロナで残りの2年間は、キャンパスライフを楽しむことがあまりできなかったため、少し残念でした。
37	できたばかりのスポーツ科だったが、大学側の雑な面が目立ったことが1番の不満
38	4年間の中で1番満足しているのは、学生メンターを経験できたことです。他学部の学生と切磋琢磨しながら様々な意見に触れることができ、コミュニケーション能力を磨くことで社会人になってとても役に立ちました。授業への満足度はそこまで高くありません。
39	勉強と部活動の両方とも充実して、自分のやりたいことを沢山できました。
40	私は、大学で友人をつくることができませんでした。ですが、勉強、就職、心のこと等、困ったときに頼る場所が設けられていたので自分ひとりで悩んでしまうことはありませんでした。助けを求めれば応じていただける環境だったので、とても満足だなと感じています。
41	<p>母国や育った環境が違う人々と4年間も自由にコミュニティを取り、自分のペースで勉強できる環境だったので、学費分以上の価値があると感じている。</p> <p>しかし、車での通学が原則禁止されているのと駐車場が多くないのが難点であると思われる。学生全員が学校付近に住んでいないので、車での通学を認めてもらえればありがたいです。</p>

42	友人と過ごす日々が楽しかったからです
43	とにかく楽しかったです。
44	自分の意見や要望を簡単に伝える場が少ない。
45	社会人として糧になる事を学べたから。
46	自ら学ぶ力を得ることが出来た。
47	国際交流ができ満足
48	部活動中心に過ごした4年間でしたが、山学に入って良かったと思います。
49	キャンパスの設備、教授の方々と包括的で勉学に励むことができる環境でした。
50	アルバイトやサークル活動などをもっと積極的にすればよかった。就職についても納得いく就職が出来なかったのも。
51	学部の内容を中心に勉強をし、その学んだ内容に近い資格試験にも挑戦したから。
52	大学で学んだことがあまり社会人になって生きてこない。 コロナの影響で一年半はほとんどキャンパスに行くことがなかった。 また、卒業旅行にも行けなかったため。
53	楽しく勉学に励めた
54	学びたかったことを学び、経験できたから
55	大学の施設や環境を始め、教授達からの指導や支援をいただきながら、毎日の生活に充実していたと考えられるため。
56	大学の授業、部活や寮生活を通して社会性を身に付けることができたから。
57	授業の内容がとても分かりやすく、先生方も親身に寄り添って相談に乗ってくれたのでとても良かったです。
58	過去を振り返れば、大学4年間の中で目標を立てそれに向けて努力をし、達成に近づけることは可能であったと言えます。 しかし、当時の自分を思い返せば、何をしたらいいのか、また目標を立てる以前の問題に何に興味関心を抱き、自分はこうなりたい、という理想像を描くことは困難であった。大学入学当初、先生方から目標を定めなさい、と教えを受けましたが、そもそも何を目標にすれば良いのかが迷ってしまうので、継続的にそのようなご指導をいただけると、自分を振り返る時間ができ、多少は学生生活がより充実したのではないかと思います。
59	専門科目の知識が今でも役に立っていると思う。知名度のある資格の取得もできた。また、大学時代の友人との交流が今でもあるので励みになっている。
60	部活
61	公務員になったから

第3部分 「卒業後の就職・仕事状況」から本学の教育効果

1. 勤務先の業種

勤務先の業種について尋ねたところ、「公務」（28.1%）が最も多く、次いで第2位の「情報通信業」（10.9%）と「医療・福祉」（10.9%）、第3位「卸売・小売業」（9.4%）、第4位「金融・保険業」7.0%、第5位の「建設業」（4.7%）と教育・学習支援業（4.7%）である。

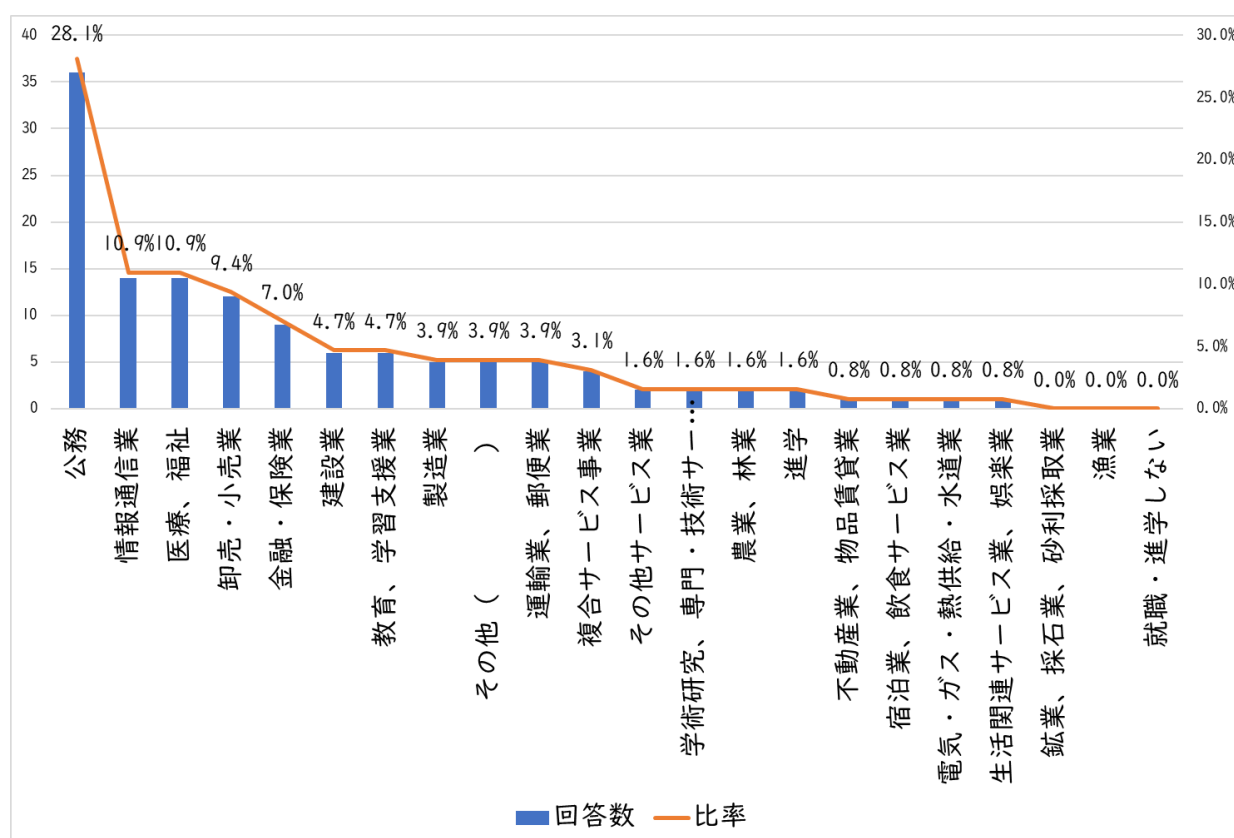


図 3-1 勤務先の業種

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。（24 社内訳記入あり）

メディア、報道業界	執筆業	農協	NSC 大阪の笑い芸人
-----------	-----	----	-------------

2. 就職先で担当する職種

勤務先で担当する職業種について尋ねたところ、「事務従事者」（23.4%）が最も多く、次いで第2位の「販売従事者」（17.2%）、第3位の「公務員（市役所職員・警察等）」（8.6%）、第4位の「その他」（7.8%）、第5位の「情報処理・通信技術者」7.0%である。

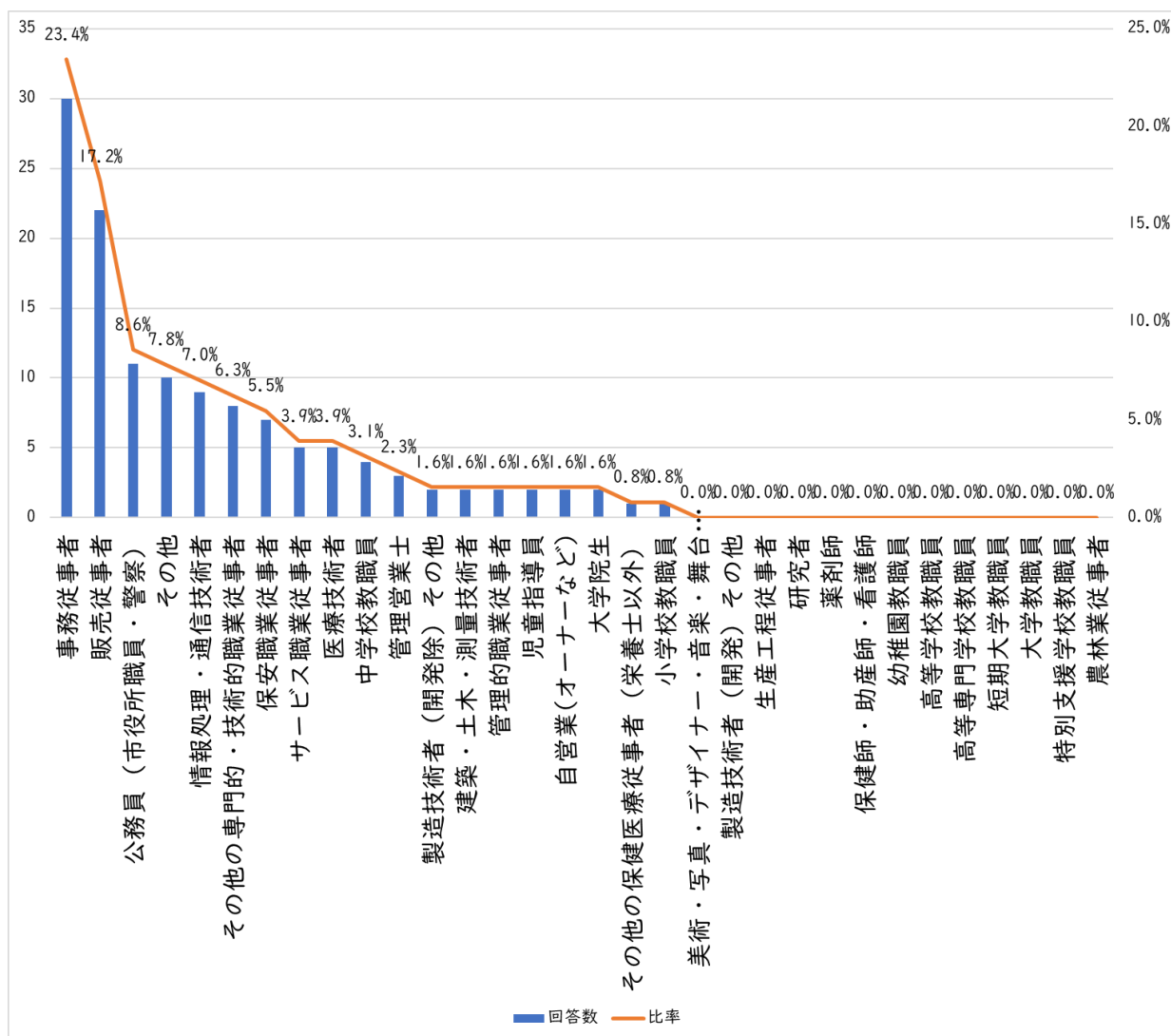


図 3-2 勤務先で担当する職種

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

カメラマン兼報道記者	運転手
スイミングコーチ	学校事務職員
ウェブライター	マーケティング、コンサルティング
職業指導員	英会話塾講師
職業指導員	英会話塾講師

3. 勤務先を決める重視するもの

勤務先を決める際に最も重視するものは何かについて尋ねたところ、「安定性」24.2%が最も多く回答された。次いで「業種」15.6%、「その他」13.3%、「勤務時間・休暇・福祉厚生など」12.5%の順である。また、10.9%の方は「大学での専門分野との関連」という理由で勤務先を決めると回答した。

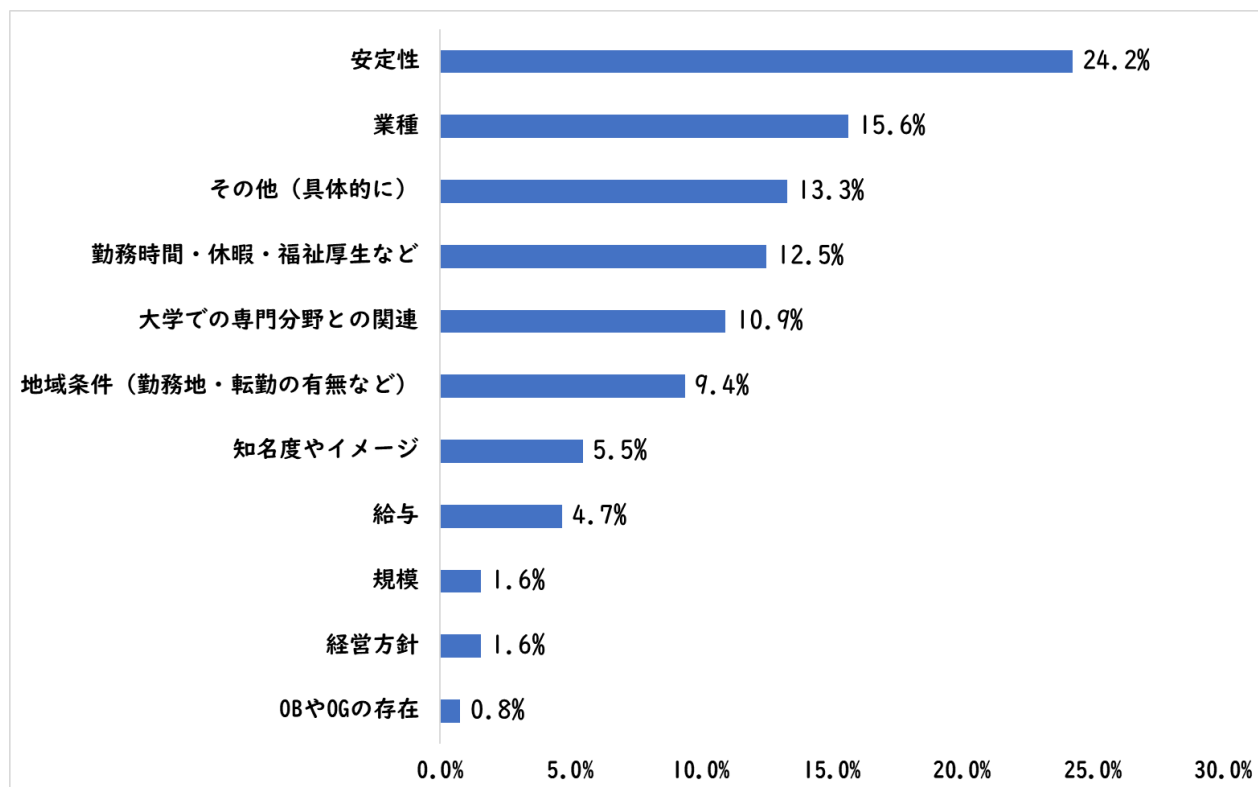


図 3-4 勤務先を決める最も重要なもの

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

記入数	理由の内訳
1	割愛
2	目的とのマッチ
3	やりがい、そして楽しさ
4	人間関係
5	自身のやりたいこと
6	将来なりたかった仕事
7	バスケットボールを続けながら働けるか
8	後悔しない事
9	好きなことを満たしている (スポーツと子ども)
10	自身のスキルアップが望ましい成長できる環境

11	業種、安定性、勤務地、給与、規模、知名度やイメージを総合して
12	ある程度有名で入社出来そうだったから。
13	大学まで続けていた部活動を社会人でも続けたいと考えていたから
14	自分が本当にやりたいこと
15	人柄社内の雰囲気やどんな人がこの会社には多いのか
16	社員の雰囲気
17	公務員になりたい

4. 転職の有無

現在働いている勤務先、何社目であるかを尋ねたところ、「学部卒業後、転職なし、1社目」と回答した卒業生は73.4%であり、最も多くなっている。転職ある場合には、「2社目」と回答した卒業生は全体の17.2%を占める。「4社目」と回答したのは全体の1.6%を占めている。

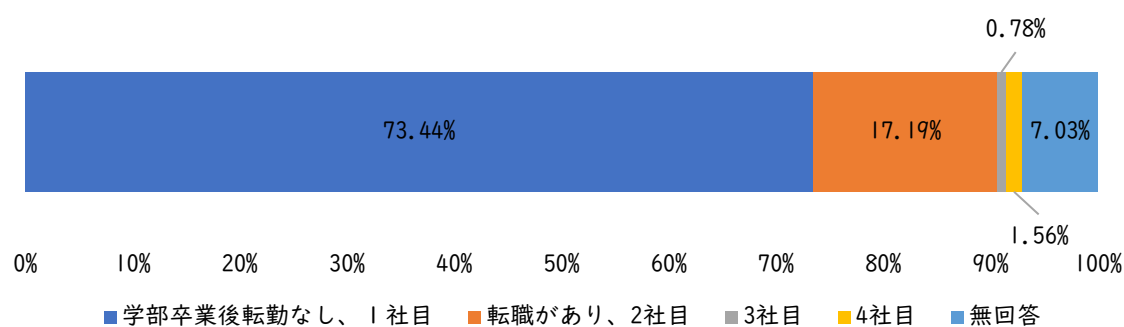


図 3-4 転職の有無

5. 1社目の勤務年数（転職ある場合）

転職があった方は学部卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を尋ねたところ、「1年以上～2年」32.4%が最も多くなっている。次いで「半年～1年まで」を回答したのは26.5%の割合を占める。

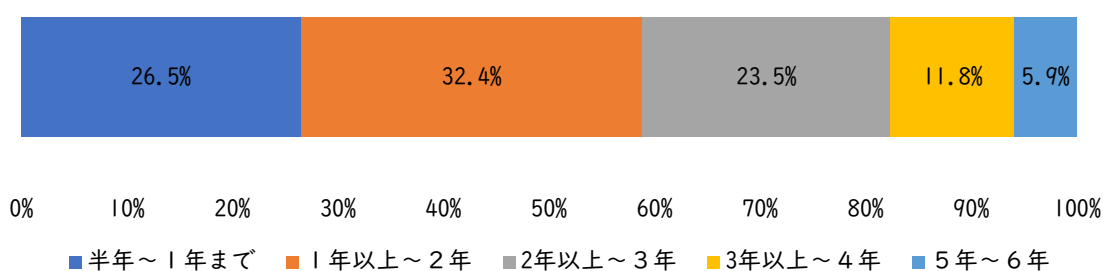


図 3-5 1社目の勤務年数

6. 1社目の勤務年数（転職ある場合）

最初に就いたお仕事から転職または辞職された理由について尋ねたところ、「新たなステップアップを図るため」29.4%が最も多く、次いで「その他」23.5%、「職場の人間関係」17.6%、「能力不足」11.8%の順となっている。

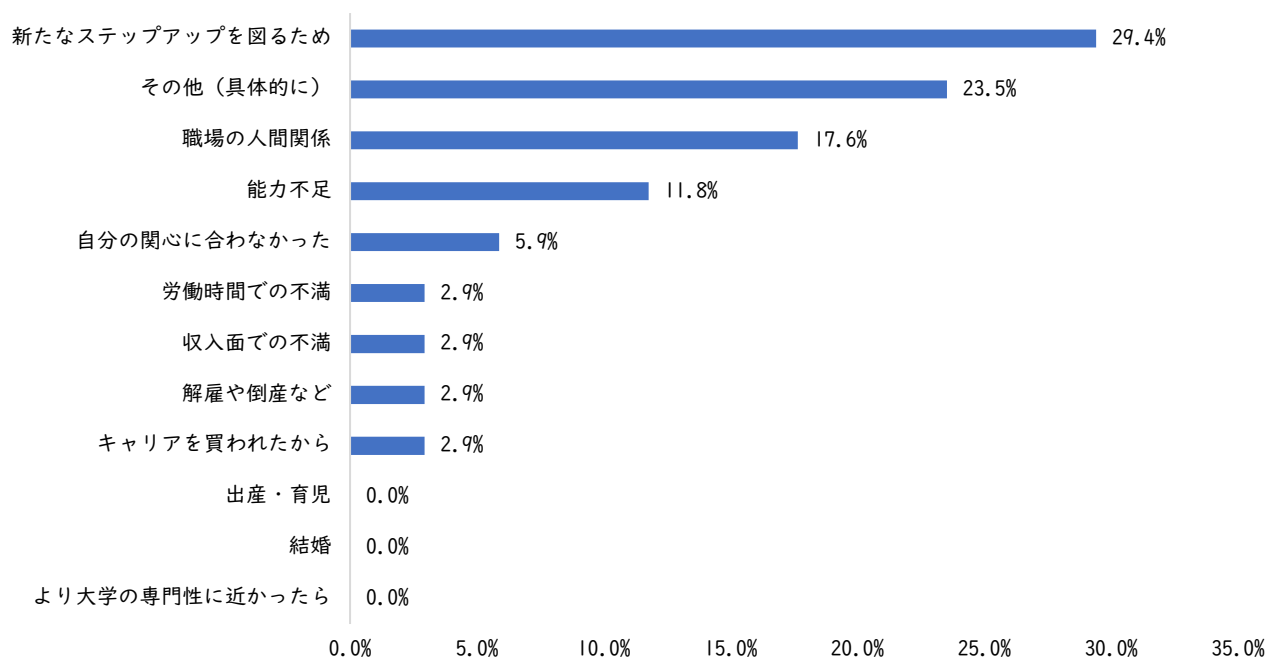


図 3-6 辞職した理由

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。

回答数	「その他」の内訳	回答数	「その他」の内訳
1	一身上の都合	5	条件の違い
2	パワハラを受けた	6	保険のノルマが嫌だった
3	消防員のほうがもてるから	7	第一志望の業種に採用となったため
4	現在転職を準備中。会社を退職後は、専門職大学院に進学希望	8	学科に紹介された職場にも関わらず、助成金詐欺などを行うブラックな職場だった

7. 現在の仕事の勤務年数

現在の仕事の勤務年数を尋ねたところ、「半年～1年まで」44.5%が最も多く、次いで「1年以上～2年」22.7%である。

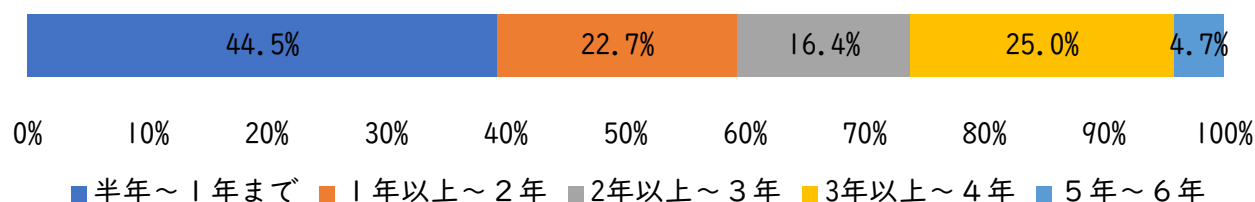


図 3-7 現在の仕事の勤務年数

8. 大学教育の有用性

山梨学院大学の学部時代に受講した科目や学修経験は、現在の仕事にどの程度役立っているかについて尋ねたところ、「4. かなり役に立っている」を選択した割合でランク付けすると、上位の5位は以下の通りである。

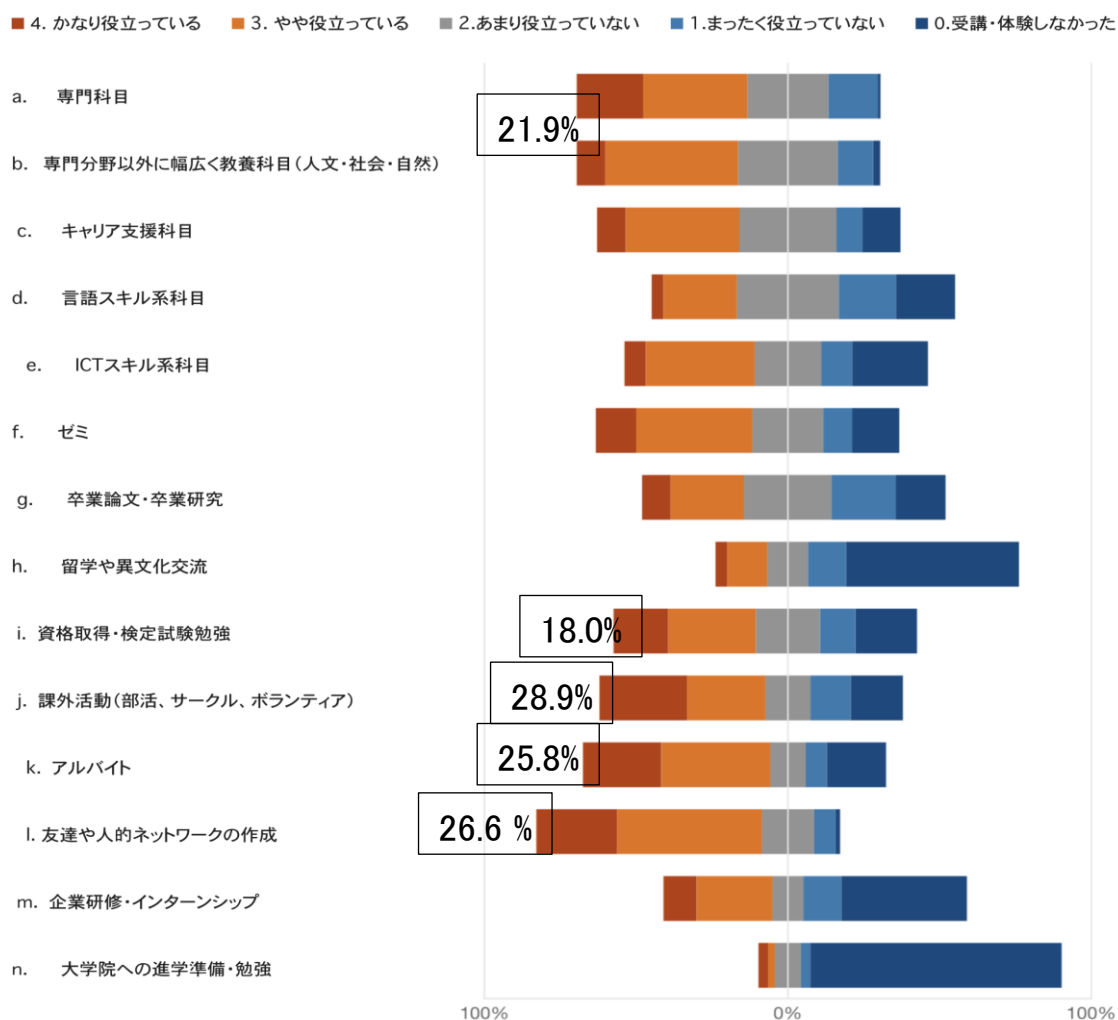


図 3-8 仕事において学修経験の効果

第1位は「j. 課外活動(部活・サークル・ボランティア)」(28.9%)、次いで「l. 友達や人的ネットワークの作成」(26.6%)、「k. アルバイト」(25.8%)、「a. 専門科目」(21.9%)、「i. 資格取得・検定試験勉強」18%の順である。

9. 卒業生の目線から見た企業側が重視する採用ポイント

卒業生が就職された会社に採用されたときに、採用する側にとって、次のようなことはどの程度重要だと思っているかについて、「4. かなり重要だった」を選択した割合でランク付けすると、全てのポイントのうち、トップ3位はそれぞれ以下の通りである。

■ 4.かなり重要だった ■ 3.やや重要だった ■ 2.あまり重要でなかった ■ 1.まったく重要でなかった

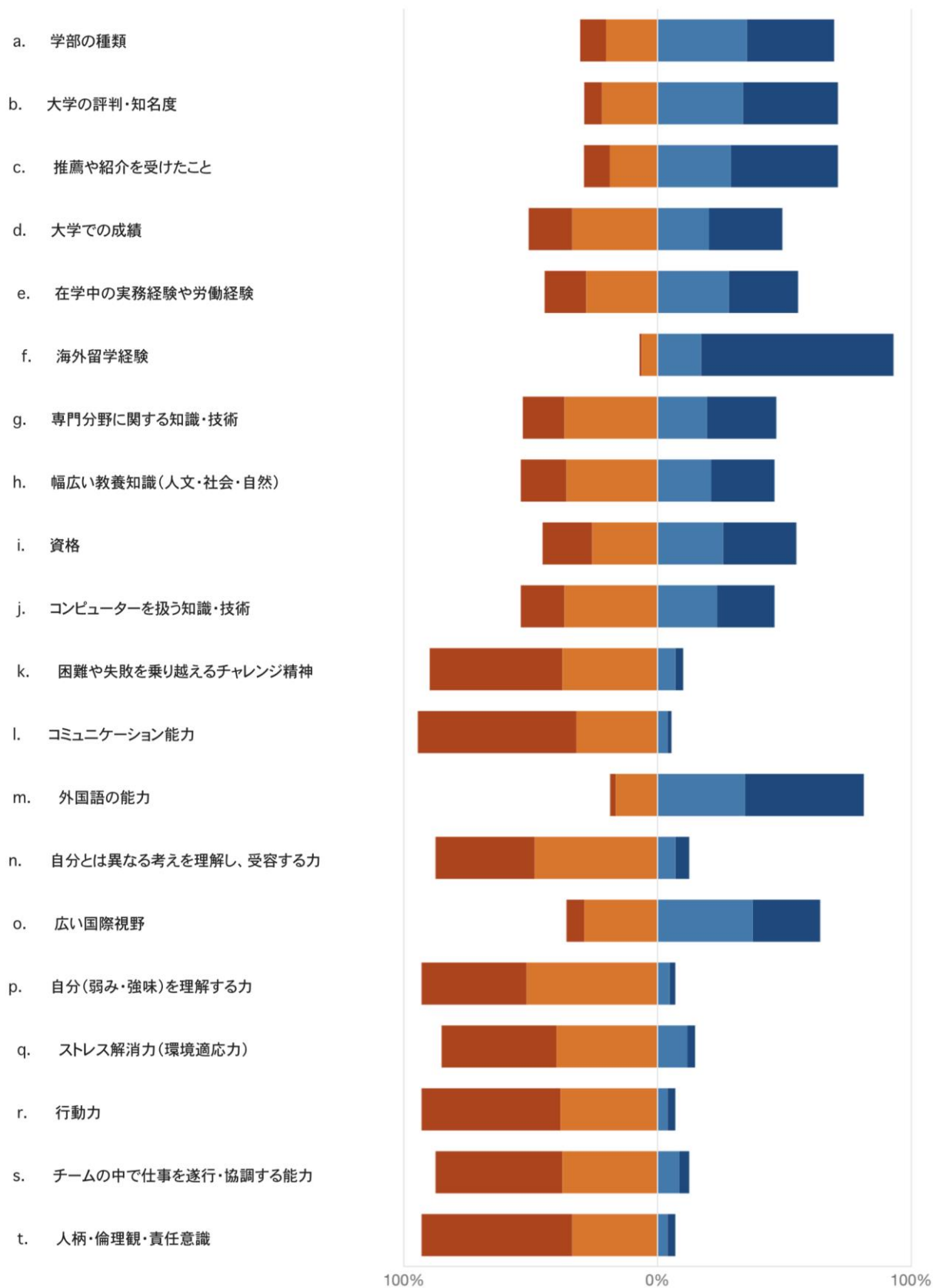


図 3-9 業生の目線から見た企業側が重視する採用ポイント

- 第1位：「l. コミュニケーション能力」 (62.5%)
- 第2位：「t. 人柄・倫理観・責任意識」 (59.4%)
- 第3位：「r. 行動力」 (54.7%)
- 第4位：「k. 困難や失敗を乗り越えるチャレンジ精神」 (52.3%)
- 第5位：「q. ストレス解消力 (環境適応力)」 (45.3%) となっている。

他方、「l. まったく重要でなかった」の割合でランク付けすると、トップ3位はそれぞれ

- 第1位：「f. 海外留学経験」 (75.8%)
- 第2位：「m. 外国語の能力」 (46.9%)
- 第3位：「c. 推薦や紹介を受けること」 (42.2%)
- 第4位：「b. 大学の評判・知名度」 (37.5%)
- 第5位：「q. 学部の種類」 (34.4%) となっている

10. 卒業後の仕事満足度

全体から見ると、卒業後の仕事に対する満足度に関して、「l. 満足していない」と「あまり満足ではない」を答えた卒業生の割合はわずかの2割未満(17.2%)であった。「とても満足している」の割合と「ある程度満足している」の割合を合算すると、82.8%の方は、現在の仕事に満足していると分かった。

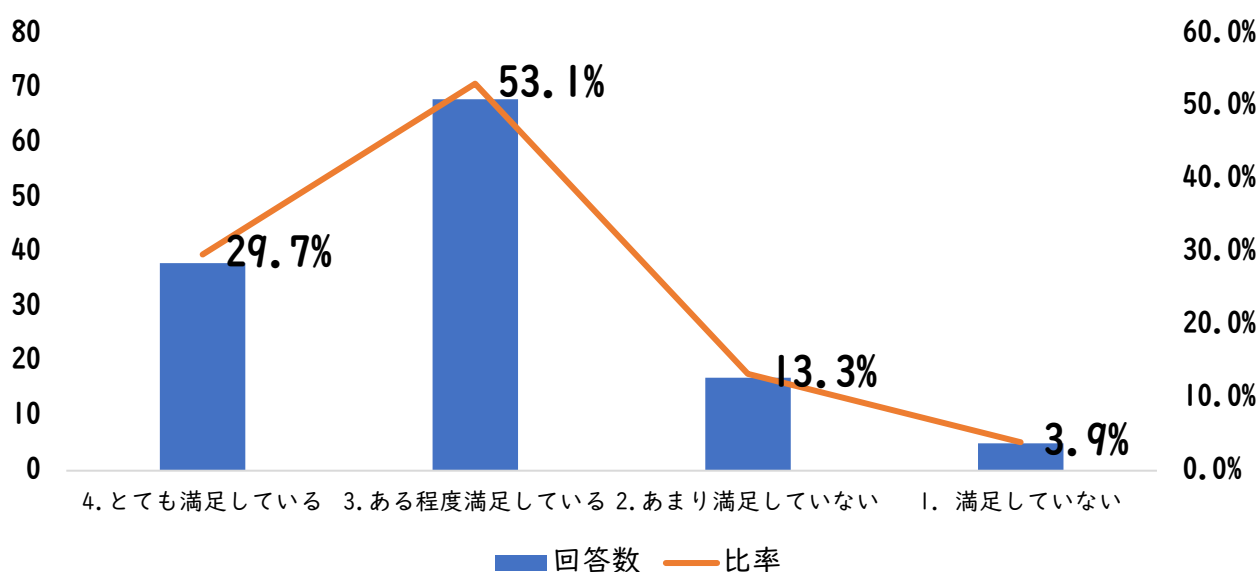


図 3-10 卒業後の仕事満足度

1. 卒業後の生活満足度

全体から見ると、卒業後の生活に対する満足度に関して、「l. 満足していない」と「あまり満足ではない」を答えた卒業生の割合はわずかの2割弱(14%)であった。「とても満足している」の割合

合と「ある程度満足している」の割合を合算すると、85.9%の方は、現在の仕事に満足していると分かった。

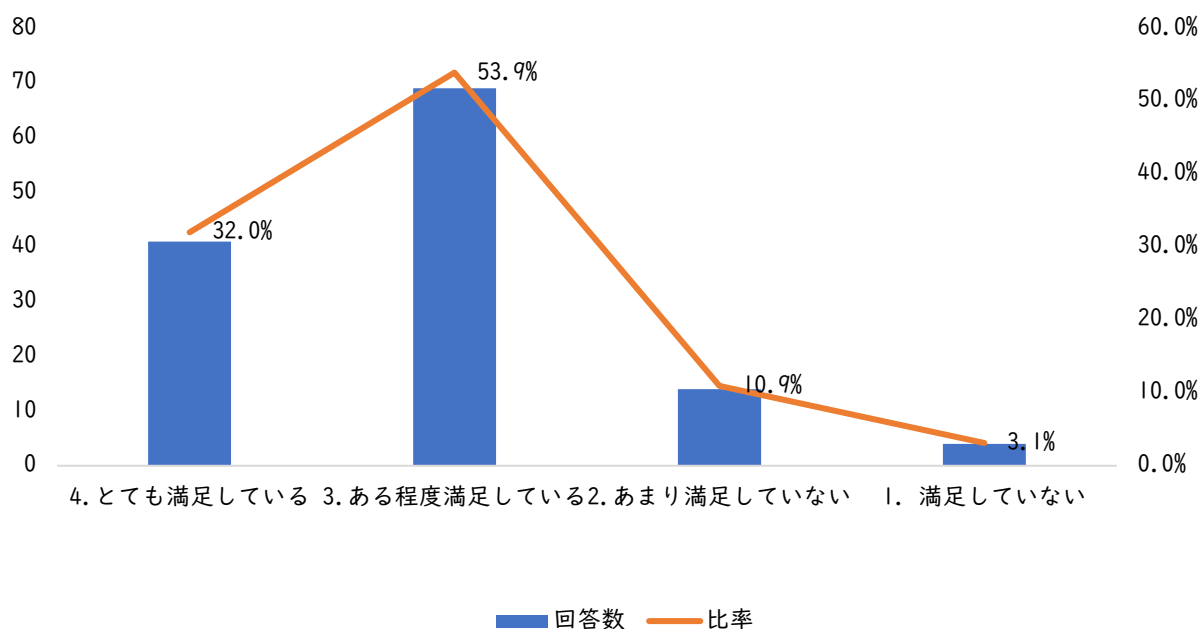


図 3-11 卒業後の生活満足度

II. 資格の実用性

Q、大学時代でもしく就職してから、今後のキャリア展開に役に立つ資格だと思い、積極的に取り組んでいた資格があれば、教えてください。

この部分を集計データの 41 ページから 43 ページを参照されたい。

第4部分 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度

1. 大学教育の有用性

本学での学習経験や獲得したコンピテンスについて、「a. 人格の発達」「b. 長期的なキャリアを展望すること」「c. 専門分野に応じる仕事を見つけること」「d. 満足のいく仕事を見つけること」に役に立っているのかという指標から、本学の教育の有用性について尋ねたところ、「とても役に立っている」の割合と「やや役に立っている」の割合を合算すると、教育の有用性に関するいずれの指標においても、約7～8割の学生が肯定的評価している。特に、人格の発達の上で役に立っているとポジティブに回答している学生は84.4%いる。

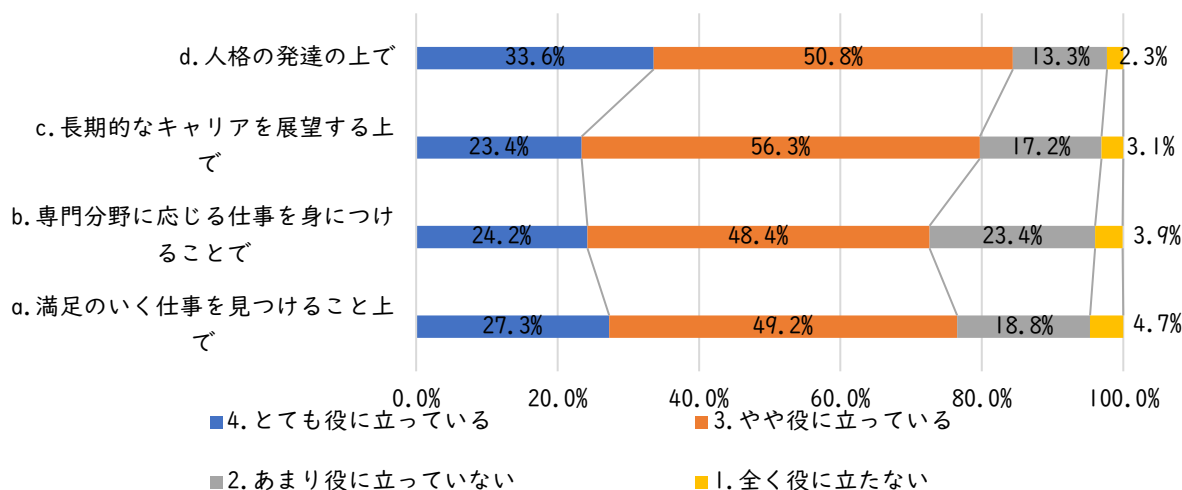


図 4-1 大学での学習経験や獲得したコンピテンスの有用性

2. 大学への投資価値

18歳時点に戻り、再度高校卒業後の進路選択ができると仮定した場合、「四年制大学に行く」(95.3%)を再度選択する割合最も多く、「専門学校に行く」(3.1%)、「短期大学に行く」(0.8%)、「進学しない」(0.8%)の順となった。10人のうち、1人しか四年制大学に行きたくないという回答から見ると、高等学校卒業後大学で教育を受けることは一般的に認識されていることがわかった。

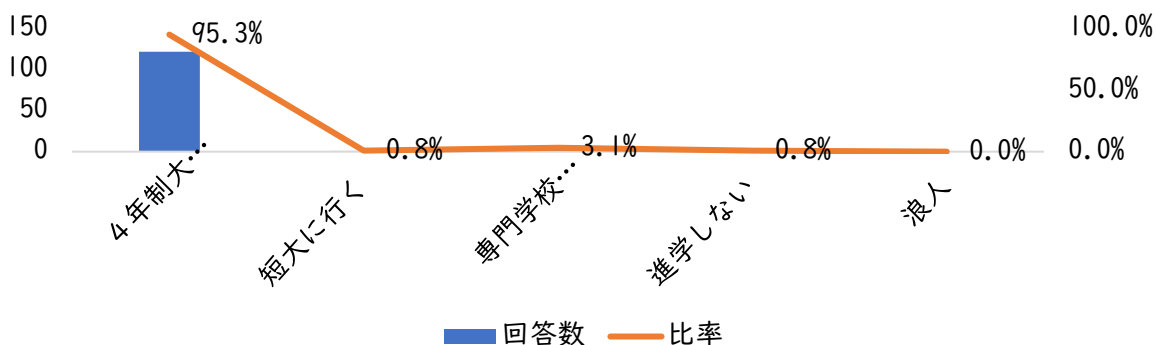


図 4-2 高卒後の進路選択（仮選択）

3. 同じ大学、同じ専門を再度選択したのか（仮選択）

18歳時点に戻り、再度高校卒業後の進路選択ができると仮定した場合、同じ大学を選択するか尋ねたところ、「やや可能性が高い」（47.7%）が最も多く、次いで「あまり可能性がない」26.6%、「とても可能性が高い」16.4%、「まったく可能性がない」（9.4%）の順である。可能性のある両者を合わせた割合が6半分を超え、64.1%となるが、再度同じ大学を選択することは「とても可能性がある」と回答した卒業生の割合がやや低いとの傾向も見られる

他方、再度18歳時点に戻ることができると仮想したら、同じ専門分野を選択するか尋ねたところ、「とても可能性が高い」（40.6%）と回答した割合が最も多く、次いで「やや可能性が高い」（30.5%）となった。両者を合わせた割合が71.1%となる。10人のうち、7人の卒業生は当初自分の専門選択に後悔がなく、本学が取り組んでいる専門教育に肯定的な評価をしていることがわかった。

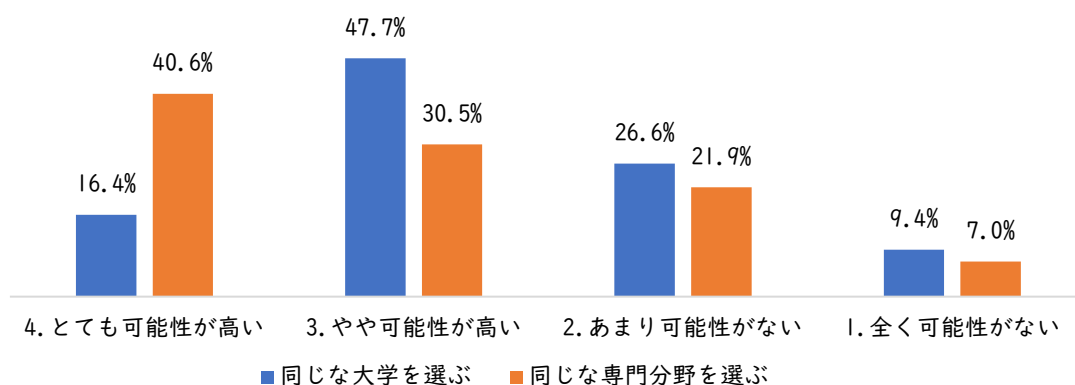


図4-3 同じな大学、同じな専門を再度選ぶのか（仮選択）

4. 母校への愛着度

本学への進学を他の人に推薦するか尋ねたところ、「やや推薦します」（50.3%）と回答した割合が最も多く、次いで「推薦します」（27.3%）である。両者を合わせた割合が、71.1%となる。10人のうち、7人の卒業生は母校に愛着度を持ち、他人に自分の母校への進学を推薦可能性があると推測される。

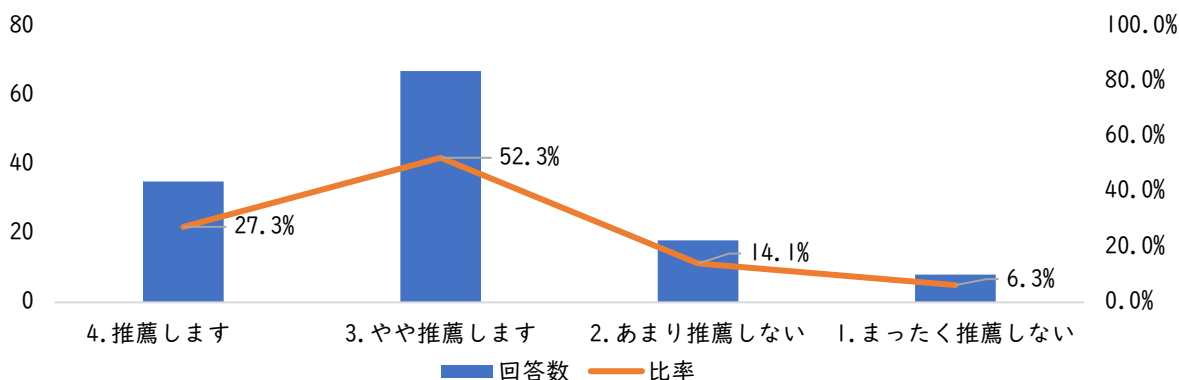


図4-4 他人に母校への推薦するか（仮選択）

推薦する理由について、下記の自由記述では、「県内では知名度が高い」、「スポーツ学科が強い」、「国際化」といった理由が挙げられている。一方、推薦しない理由も以下「5」に示すように、指摘されている。

5. 4.1 推薦しない理由（自由記述）（紫付きのほうは、推薦する理由を指す）

回答数	推薦したくない理由
1	設備
2	特にありません
3	県内では知名度が高い
4	大学に行くより早く働いた方がみのためになるから
5	良くない点の方が多いと感じたため。
6	自分の進路が決まっているのであれば専門分野の勉強をするべき
7	目的意識が無いと大学生活を充実させるのは難しいと感じた。（自分は最初の頃は目的意識も無く、ただ大学に通うだけだったので）
8	地方大学なので人を選ぶ
9	山梨学院を選ぶ理由がありません。
10	相手がスポーツをベースとするならば推薦するが、勉学をベースとするならば、推薦相手の学力と興味を優先するべきだと考えるから。
11	スポーツや、国際に興味があればお勧めする。
12	学生が多く、教員などの指導が手薄になりやすいから。
13	専門的指導が少ない。
14	スポーツをするには適しているが、知名度や大学のランクを考えるとやはり就職には不利であるから。一流企業等に就職したいと思っているなら周りのレベルが高い大学に行った方が良い。
15	お金が予想以上にかかるから。
16	教員が優しすぎる故に自分を厳しくできない

6. 卒業生からのメッセージ

この部分は学内公開のみとなっているため、省略する

8. 集計結果

集計結果

第I部分 「回答者情報」

1. 卒業年度

表 1-1. 回答者の卒業年度

	回答数	比率		回答数	比率
2022年3月卒	29	22%	2019年3月卒	15	12%
2021年9月卒	0	0%	2018年9月卒	1	1%
2021年3月卒	32	25%	2018年3月卒	23	18%
2020年9月卒	0	0%	2017年9月卒	0	0%
2020年3月卒	27	21%	2017年3月卒	1	1%
2019年9月卒	0	0%	合計	128	100%

2. 卒業学部・学科

表 1-2 卒業学部

	回答数	比率
法学部	67	52%
経営学部	29	23%
健康栄養学部	12	9%
スポーツ学部	20	16%
合計	128	100%

3. 現在の居住地

表 3-1 卒業生の現在の居住地

	回答数	比較		回答数	比率
山梨県	47	36.7%	茨城県	1	0.8%
東京都	15	11.7%	群馬県	1	0.8%
長野県	15	11.7%	和歌山県	1	0.8%
神奈川県	9	7.0%	兵庫県	1	0.8%
埼玉県	8	6.3%	宮崎県	1	0.8%
静岡県	7	5.5%	宮城県	1	0.8%
愛知県	5	3.9%	熊本県	1	0.8%
千葉県	3	2.3%	高知県	1	0.8%
大阪府	2	1.6%	青森県	1	0.8%
新潟県	2	1.6%	広島県	1	0.8%
北海道	2	1.6%	福井県	1	0.8%
富山県	1	0.8%	合計	128	100%
栃木県	1	0.8%			

第2部分 大学時代の学習・生活から見た本学の教育効果

1. 進学理由（複数回答）

Q. 本学を選んだ理由を教えてください。当てはまる理由を選択してください。

表 2-2-1 卒業生から見た本学を選んだ理由

	回答数	順位
5. 学びたい学部・学科がある	62	第1位
10. 自宅から通学できる	38	第2位
11. 推薦入学制度があった	29	第3位
2. キャンパスの立地がよい	22	第4位
7. 親や知人に勧められた	21	第5位
17. その他	20	
8. 資格が取れる	18	
15. 設備・施設が充実している	17	
3. 就職状況がよい	16	
9. 自分の偏差値に合っている	15	
14. 指導をうけたい教員がいる	12	
16. 特に考えてなかった	9	
6. 知名度が高い	7	
4. 少人数で主体的学べる	3	
12. 山梨の文化に触れたい	3	下位1
1. 建学の精神や人材育成理念に惹かれた	2	下位1
13. 教育環境が国際的だ	1	下位1

2. 大学で熱心に取り組んだこと（4段階評価）

表 2-2-2 大学時代に取り組んだこと

	4. 熱心	3. やや熱心	2. やや不熱心	1. 不熱心	0. 体験しなかった	合計
a. 大卒の学歴を得るための必要な単位を取ること	46.1%	46.1%	6.3%	0.8%	0.8%	100.0%
g. 課外活動（部活、サークル、ボランティア）	43.8%	21.1%	8.6%	10.2%	16.4%	100.0%
h. アルバイト	39.1%	27.3%	12.5%	2.3%	18.8%	100.0%
m. 卒業論文作成	35.9%	31.3%	12.5%	17.2%	17.2%	100.0%
l. ゼミ	32.8%	41.4%	5.5%	3.1%	17.2%	100.0%
i. 友達や人的ネットワークの作成	27.3%	46.9%	18.0%	6.3%	1.6%	100.0%
f. 資格取得・検定試験勉強	23.4%	35.2%	18.0%	6.3%	17.2%	100.0%

b. 学部の専門分野以外に幅広く教養を身につけること（ヒューマンスキル科目・キャリア支援科目）	19.5%	49.2%	17.2%	10.2%	3.9%	100.0%
j. インターンシップ	14.8%	20.3%	10.2%	10.2%	43.8%	100.0%
e. 留学や異文化交流	9.4%	12.5%	10.9%	10.9%	56.3%	100.0%
c. 外国語の能力を身につけること（言語スキル科目）	5.5%	24.2%	25.8%	26.6%	18.0%	100.0%
d. ICTスキルやデータサイエンスの知識を身につけること（ICTスキル科目）	5.5%	24.2%	20.3%	15.6%	34.4%	100.0%
k. 大学院への進学準備・勉強	3.9%	3.9%	3.9%	4.7%	83.6%	100.0%

3. 山梨学院大学で身につけたコンピテンス（知識・スキル・資質）（4段階評価）

表 2-3-1 卒業時点身につけたコンピテンス

	平均値	最小値	最大値	回答者
a. 専門分野に関する知識・技術	3.1	1	4	128
b. 幅広い教養知識（人文・社会・自然）	2.8	1	4	128
c. 学際的な知識・技術	2.66	1	4	128
d. 職業的知識・技術	2.76	1	4	128
e. コンピューターを扱う知識・技術	2.53	1	4	128
f. ものごとを批判的吟味・検討・改善	2.98	1	4	128
g. 知識・技能を把握・応用する能力	2.98	1	4	128
h. 状況や場面、相手に即して的確に表現	2.98	1	4	128
i. 計画・立案・調整・組織化・行動する	2.98	1	4	128
j. 困難や失敗を乗り越えるチャレンジ精神	3.17	1	4	128
k. 多様・複雑な人間関係を構築・管理できる力	3.09	1	4	128
l. コミュニケーション能力	3.19	1	4	128
m. 外国語の能力	1.77	1	4	128
n. 自分とは異なる考えを理解し、受容する力	3.23	1	4	128
o. 広い国際視野	2.2	1	4	128
p. 自分（弱み・強味）を理解する力	3.05	1	4	128
q. ストレス解消力（環境適応力）	2.95	1	4	128
r. 就職・キャリアを事前に考える展望力	2.91	1	4	128
s. チャンスを生かす力	2.85	1	4	128
t. チームの中で仕事を遂行・協調する能	2.98	1	4	128
u. リーダーシップを発揮する能力	2.77	1	4	128
v. 倫理観・責任意識	3.14	1	4	128

4. 大学教育・キャンパスライフへの総合評価（4段階評価）

表 2-4 母校の教育・キャンパスライフの満足度

	回答者	比率
4. とても満足している	47	36.7%
3. ある程度満足している	72	56.3%
2. あまり満足していない	7	5.5%
1. 満足していない	2	1.6%
合計	128	100.0%

第3部分 卒業後の就職・仕事状況から見た本学の教育効果

1. 勤務先の業種

表 3-1 勤務先の業種

	回答数	比率		回答数	比率
公務	36	28.13%	学術研究、専門・技術サービス業	2	1.56%
情報通信業	14	10.94%	農業、林業	2	1.56%
医療、福祉	14	10.94%	進学（山梨大学Ⅰ、山梨学院大学Ⅰ）	2	1.56%
卸売・小売業	12	9.38%	不動産業、物品賃貸業	1	0.78%
金融・保険業	9	7.03%	宿泊業、飲食サービス業	1	0.78%
建設業	6	4.69%	電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.78%
教育、学習支援業	6	4.69%	生活関連サービス業、娯楽業	1	0.78%
製造業	5	3.91%	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.00%
その他	5	3.91%	漁業	0	0.00%
運輸業、郵便業	5	3.91%	就職・進学しない	0	0.00%
複合サービス事業	4	3.13%	合計	128	100.0%
その他サービス業	2	1.56%			

※上記、「その他」の内訳は以下の通りである。（24 社内訳記入あり）

メディア、報道業界	執筆業	農協	NSC 大阪の笑い芸人
-----------	-----	----	-------------

2. 就職先で担当する職種

表 3-2 勤務先で担当する職種

	回答数	比率
事務従事者	30	23.4%
販売従事者	22	17.2%
公務員（市役所職員・警察）	11	8.6%
その他	10	7.8%
情報処理・通信技術者	9	7.0%

その他の専門的・技術的職業従事者	8	6.3%
保安職業従事者	7	5.5%
サービス職業従事者	5	3.9%
医療技術者	5	3.9%
中学校教職員	4	3.1%
管理営業士	3	2.3%
製造技術者（開発除）その他	2	1.6%
建築・土木・測量技術者	2	1.6%
管理的職業従事者	2	1.6%
児童指導員	2	1.6%
自営業（オーナーなど）	2	1.6%
大学院生	2	1.6%
その他の保健医療従事者（栄養士以外）	1	0.8%
小学校教職員	1	0.8%
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台芸術家	0	0.0%
製造技術者（開発）その他	0	0.0%
生産工程従事者	0	0.0%
研究者	0	0.0%
薬剤師	0	0.0%
保健師・助産師・看護師	0	0.0%
幼稚園教職員	0	0.0%
高等学校教職員	0	0.0%
高等専門学校教職員	0	0.0%
短期大学教職員	0	0.0%
大学教職員	0	0.0%
特別支援学校教職員	0	0.0%
農林業従事者	0	0.0%
合計	128	100.0%

3. 勤務先を決める際に重視するもの

表 3-3 勤務先を決める際に重視するもの

	回答数	比率	順位
安定性	31	24.2%	第1位
業種	20	15.6%	第2位
その他（具体的に）	17	13.3%	
勤務時間・休暇・福祉厚生など	16	12.5%	第3位

大学での専門分野との関連	14	10.9%	
地域条件（勤務地・転勤の有無など）	12	9.4%	
知名度やイメージ	7	5.5%	
給与	6	4.7%	
経営方針	2	1.6%	
規模	2	1.6%	
OB や OG の存在	1	0.8%	
合計	128	100.0%	

4. 転職の有無

表 3-4 転職の有無

	回答者	比率
1社目（学部卒業後 転職なし）	94	80.5%
2社目	22	17.2%
3社目	1	0.8%
4社目	2	1.6%
無回答	9	
合計	128	100.0%

5. 1社目の勤務年数（転職ある場合）

Q、転職があった方は学部卒業後に就いた最初のお仕事の勤続年数を記入してください。

表 3-5 1社目の勤務年数

	回答数	比率
半年～1年まで	9	26.5%
1年以上～2年	11	32.4%
2年以上～3年	8	23.5%
3年以上～4年	4	11.8%
5年～6年	2	5.9%
合計	34	100.0%

6. 辞職した理由

Q 最初に就いたお仕事から転職または辞職された理由はなんですか。最も大きい理由を一つだけ教えてください。

表 3-6 辞職・転職した理由

	回答数	比率	順位
新たなステップアップを図るため	10	29.4%	第1位
その他（具体的には、以下参考）	8	23.5%	

職場の人間関係	6	17.6%	第2位
能力不足	4	11.8%	第3位
自分の関心に合わなかった	2	5.9%	
キャリアを買われたから	1	2.9%	
解雇や倒産など	1	2.9%	
収入面での不満	1	2.9%	
労働時間での不満	1	2.9%	
より大学の専門性に近かったら	0	0.0%	
結婚	0	0.0%	
出産・育児	0	0.0%	
合計	34	100.0%	

7. 現在の仕事の勤務年数

表 3-7 現在の仕事の勤務年数

	回答数	比率
半年～1年まで	57	44.5%
1年以上～2年	29	22.7%
2年以上～3年	21	16.4%
3年以上～4年	32	25.0%
5年～6年	6	4.7%
合計	128	100.00%

8. 大学経験は仕事への有用度

Q、あなたが山梨学院大学の学部時代に受講した科目や学修経験は、現在の仕事にどの程度役立っていますか。

	4.かなり役立っている	3.やや役立っている	2.あまり役立っていない	1.まったく役立っていない	0.受講・体験しなかった	合計
a. 専門科目	21.9%	34.4%	26.6%	16.4%	0.8%	100.0%
b. 専門分野以外に幅広く教養科目 (人文・社会・自然)	9.4%	43.8%	32.8%	11.7%	2.3%	100.0%
c. キャリア支援科目	9.4%	37.5%	32.0%	8.6%	12.5%	100.0%

d. 言語スキル系科目	3.9%	24.2%	33.6%	18.8%	19.5%	100.0%
e. ICTスキル系科目	7.0%	35.9%	21.9%	10.2%	25.0%	100.0%
f. ゼミ	13.3%	38.3%	23.4%	9.4%	15.6%	100.0%
g. 卒業論文・卒業研究	9.4%	24.2%	28.9%	21.1%	16.4%	100.0%
h. 留学や異文化交流	3.9%	13.3%	13.3%	12.5%	57.0%	100.0%
i. 資格取得・検定試験勉強	18.0%	28.9%	21.1%	11.7%	20.3%	100.0%
j. 課外活動（部活、サークル、ボランティア）	28.9%	25.8%	14.8%	13.3%	17.2%	100.0%
k. アルバイト	25.8%	35.9%	11.7%	7.0%	19.5%	100.0%
l. 友達や人的ネットワークの作成	26.6%	47.7%	17.2%	7.0%	1.6%	100.0%
m. 企業研修・インターンシップ	10.9%	25.0%	10.2%	12.5%	41.4%	100.0%
n. 大学院への進学準備・勉強	3.1%	2.3%	8.6%	3.1%	82.8%	100.0%

9. 卒業生の目線から見た企業側の採用基準

Q、あなたが就職された会社に採用されたときに、採用する側にとって、次のようなことはどの程度重要だったと思いますか。あなたの印象でお答えください。

	4. かなり重要だった	3. やや重要だった	2. あまり重要でなかった	1. まったく重要でなかった	合計
a. 学部の種類	10.2%	20.3%	35.2%	34.4%	100.0%
b. 大学の評判・知名度	7.0%	21.9%	33.6%	37.5%	100.0%
c. 推薦や紹介を受けたこと	10.2%	18.8%	28.9%	42.2%	100.0%
d. 大学での成績	17.2%	33.6%	20.3%	28.9%	100.0%
e. 在学中の実務経験や労働経験	16.4%	28.1%	28.1%	27.3%	100.0%
f. 海外留学経験	0.8%	6.3%	17.2%	75.8%	100.0%
g. 専門分野に関する知識・技術	16.4%	36.7%	19.5%	27.3%	100.0%
h. 幅広い教養知識（人文・社会・自然）	18.0%	35.9%	21.1%	25.0%	100.0%
i. 資格	19.5%	25.8%	25.8%	28.9%	100.0%
j. コンピューターを扱う知識・技術	17.2%	36.7%	23.4%	22.7%	100.0%

k. 困難や失敗を乗り越えるチャレンジ精神	52.3%	37.5%	7.0%	3.1%	100.0%
l. コミュニケーション能力	62.5%	32.0%	3.9%	1.6%	100.0%
m. 外国語の能力	2.3%	16.4%	34.4%	46.9%	100.0%
n. 自分とは異なる考えを理解し、受容する力	39.1%	48.4%	7.7%	5.5%	100.0%
o. 広い国際視野	7.0%	28.9%	37.5%	26.6%	100.0%
p. 自分（弱み・強味）を理解する力	41.4%	51.6%	4.7%	2.3%	100.0%
q. ストレス解消力（環境適応力）	45.3%	35.8%	11.7%	3.1%	100.0%
r. 行動力	54.7%	38.3%	3.9%	3.1%	100.0%
s. チームの中で仕事を遂行・協調する能力	50.0%	37.5%	8.6%	3.9%	100.0%
t. 人柄・倫理観・責任意識	59.4%	33.6%	3.9%	3.1%	100.0%

10. 卒業後の仕事満足度

Q、いま、あなたの現在の仕事、どの程度満足していますか

表 3-10 卒業後の仕事満足度

	回答数	比率
4. とても満足している	38	29.7%
3. ある程度満足している	68	29.7%
2. あまり満足していない	17	29.7%
1. 満足していない	5	29.7%
合計	128	29.7%

11. 卒業後生活満足度

Q、いま、あなたの生活（仕事を除く）は、どの程度満足していますか。

表 3-11 卒業後の仕事満足度

	回答数	比率
4. とても満足している	41	32.0%
3. ある程度満足している	69	53.9%
2. あまり満足していない	14	10.9%
1. 満足していない	4	3.1%
合計	128	100.0%

12. 資格の実用性

Q、大学時代でもしく就職してから、今後のキャリア展開に役に立つ資格だと思い、積極的に取り組んでいた資格があれば、教えてください。

表 3-12 資格の実用性(大学時代と就職後の比較)

大学時代で有用だと思い、取り組んだ資格	就職してから有用だと思い、取り組んだ資格
---------------------	----------------------

1	IT パスポート、FP	FP
2	IT パスポート	基本情報技術者試験
3	IT パスポート	社会福祉士
4	IT パスポート	特になし
5	管理栄養士	特になし
6	管理栄養士国家試験	言語聴覚士国家試験
7	教員免許状取得	教員免許状取得
8	教員免許取得	ありません
9	教員免許状	特になし
10	教員免許	証券外務員試験、 生保一般試験、 損保一般試験
11	管理栄養士国家試験	特になし
12	教員免許	教員免許
13	MOS 教員免許	簿記
14	管理栄養士	特になし
15	教員免許 サッカー指導者C級	特になし
16	教員免許	特になし
17	Mos	mos インターネット系のスキル
18	秘書検定	特になし
19	宅地建物取引士	ファイナンシャルプランナー
20	日商簿記検定試験2級	ファイナンシャルプランニング3級技能士
21	FP、簿記	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験
22	HACCP 食品表示検定	資格ではないが分野はある 介護保険等
23	宅建士	FP
24	証券外務員特別二種	FP 年金アドバイザー
25	宅地建物取引士	特になし
26	税理士資格	特になし
27	簿記2級	特になし
28	日商簿記2級、IT パスポート	特になし
29	トイック、英語検定	特になし

30	危険物取扱者 日本漢字能力検定	危険物取扱者
31	特になし。資格があっても、全く役に立たないと思う。	特になし。
32	特になし。 やりたい仕事が決まっている人はそれに向けた資格を取れば良いと思うが、自分はその出なかった為。	就職後に資格の勉強を始めましたが取得した資格は何れも業務に直結しており仕事をする上で役に立ちました。 (基本・応用技術者、LPIC、AWS ソリューションアーキテクトアソシエイト等)
33	基本情報	応用情報
34	運転免許	
35	剣道段位昇段	剣道段位昇段 潜水士 エックス線作業主任者 乙四
36	特になし	特になし
37	特になし	銀行業務検定、 各種保険試験、 証券外務員試験
38	特になし	簿記
39	特になし	FP 検定試験
40	特になし	宅地建物取引士
41	特になし	キャリアコンサルタント
42	特になし	保育士試験
43	特になし	Linu C レベル I、 Python データ分析エンジニア、 AZ-104、 AZ-204、 Java silver、
44	特になし	FP 技能検定 2 級以上、 社会保険労務士 証券外務員一種、 銀行業務検定各種、 簿記 内部監査士 等

第4部分 学習経験の総合評価と本学に対する愛着度

1. 大学教育の有用性（4段階評価）

Q、大学で学んだことは下記のことにとどの程度役たっていますか

表 4-1 大学の有用性

	4. とても役に立っている	3. やや役に立っている	2. あまり役に立っていない	1. 全く役に立たない	合計
a. 満足のいく仕事を見つけること上で	27.3%	49.2%	18.8%	4.7%	100.0%
b. 専門分野に応じる仕事を見つけることで	24.2%	48.4%	23.4%	3.9%	100.0%
c. 長期的なキャリアを展望する上で	23.4%	56.3%	17.2%	3.1%	100.0%
d. 人格の発達の上で	33.6%	50.8%	13.3%	2.3%	100.0%

2. 大学への投資価値（4段階評価）

Q、いままでの大学体験及び仕事への影響からみれば、もし高卒卒業の時点から進路をもう一度選択ができるならば、あなたはどのようにしますか。

表 4-2 高卒後の進路選択（仮選択）

	回答数	比率
4年制大学に行く	122	95.3%
短大に行く	1	0.8%
専門学校に行く	4	3.1%
進学しない	1	0.8%
浪人	0	0.0%
合計	128	100.0%

3. 四年制度大学に行くのを選んだ方は、以下の行動について当てはまる項目をお選びください。（4段階評価）

表 4-3 同じな大学・専門を選択する可能性

	4. とても可能性が高い	3. やや可能性が高い	2. あまり可能性がない	1. 全く可能性がない	合計
同じな大学を選ぶ	16.4%	47.7%	26.6%	9.4%	100%
同じな専門分野を選ぶ	40.6%	30.5%	21.9%	7.0%	100%

4. 母校への愛着度（4段階評価）

Q、いままでの大学での体験及び仕事への影響からみれば、あなたは進学を他人に推薦するか。

表 4-4 母校を他人に推薦する可能性

	回答数	比率
4. 推薦します	35	27.3%
3. やや推薦します	67	52.3%
2. あまり推薦しない	18	14.1%
1. まったく推薦しない	8	6.3%
合計	128	100.0%

5. 卒業生からのメッセージ

この部分は学内公開のみとなっているため、省略する

令和4年度
山梨学院大学 卒業生調査

発行日付：2022年10月
発行部署：学習・教育開発センター
協力部署：就職・キャリアセンター
作成担当：潘秋静
倉澤一孝